

# 浜松地域の経済動向

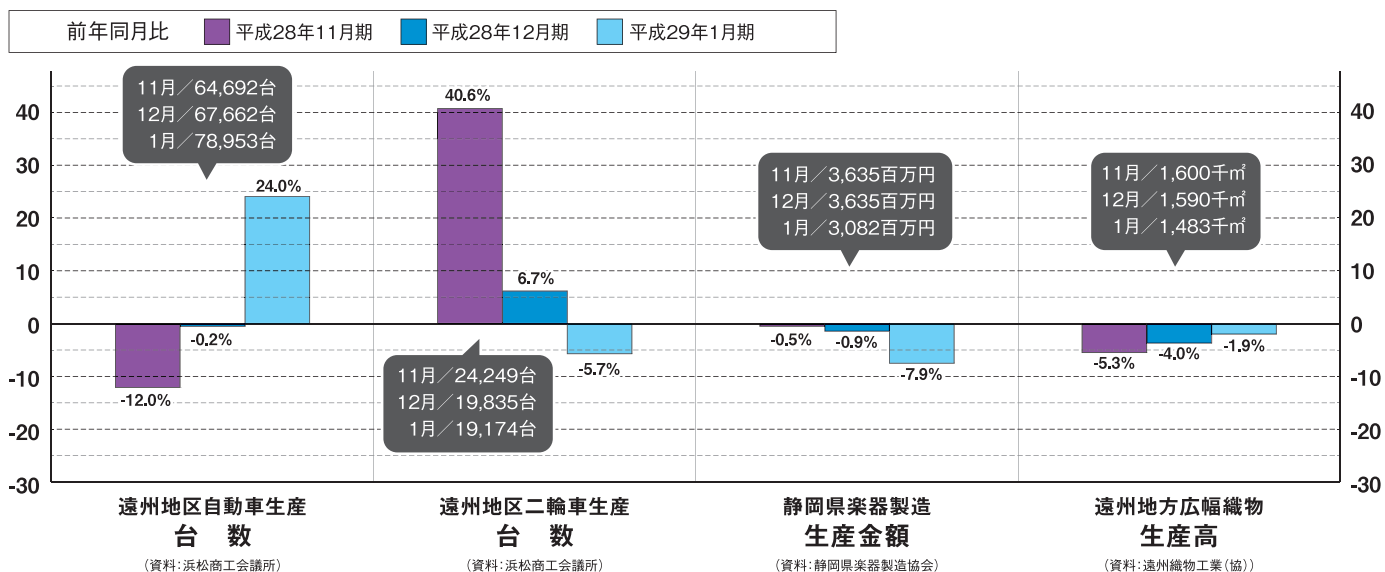
—平成29年1月を中心に—

## 自動車生産23カ月ぶりに 前年同月比プラス

2017.  
**04**  
2017年4月発行  
発行：浜松商工会議所

浜松地域の経済は、総じてみればほぼ横ばいで推移しているが、自動車生産が底打ちするなど明るい兆しも見え始めた。春先以降は、大河ドラマ効果に伴う観光客増加が期待できる一方、オランダ総選挙、フランス大統領選挙、韓国大統領選挙など海外で政治イベントが相次ぎ、結果次第では為替変動の影響などにより、情勢が大きく変化する懸念もある。

### ① 製造業〈主要経済指標〉



#### 自動車



平成29年1月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比24.0%増の7.8万台となった。前年同月水準を上回ったのは、23カ月ぶり。足元でも新型車が好調で、増産基調を維持している模様。国内販売をみても、軽自動車税の引き上げなどで低迷していた軽自動車の販売が上向いてきている。部品関連中小企業の1～3月の受注状況を見ると、受注が増加している企業が多い。

#### 二輪車



平成29年1月における二輪車生産台数は前年同月比5.7%減の1.9万台となり、4カ月ぶりに前年同月水準を下回った。部品関連中小企業では、受注増により残業・休日対応が増加するなど、人手不足感が強まっているところもある。

#### 楽器



平成29年1月における楽器生産金額は前年同月比7.9%減の30億円となった。前年同月水準を下回るのは4カ月連続。分野別に生産台数をみると、ピアノは前年同月比ほぼ横ばいの2,669台、電子・電気ピアノは9.9%減の598台、電子オルガンは79.0%増の789台、管楽器は6.6%減の7,759台となった。

#### 繊維



平成29年1月の生産量は前年同月比1.9%減の1,483千㎡となり、3カ月連続して前年同月を下回った。好調だった春夏物の生産が終盤に差し掛かり、例年より早めに生産が終了になる模様。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



平成29年1月におけるタクシー乗車人員は前年同月比2.3%減の45万人となった。前年同月水準を下回るのは4カ月連続。

### 観光



平成29年1月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比1.0ポイント低下の69.4%となった。中国人を中心とした訪日外国人宿泊客増は一巡した。

1月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比5.7%増の3万3千人となり、13カ月連続で前年同月を上回った。

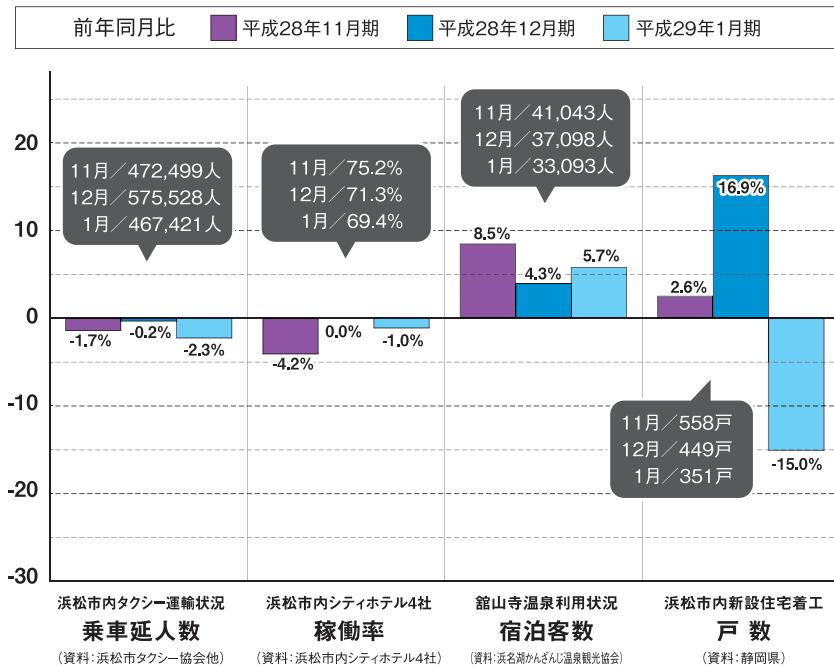
当地を舞台とした大河ドラマ効果により、シティホテル、館山寺温泉とも高水準の稼働が見込まれている。

### 住宅着工

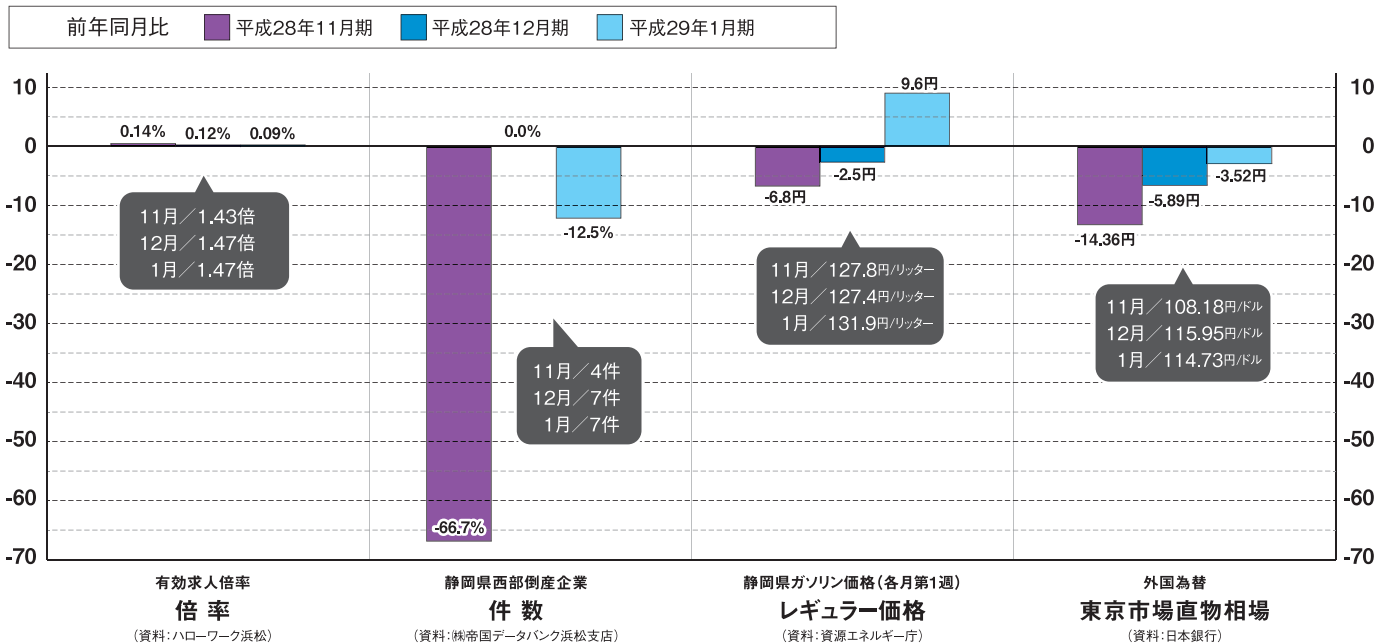


平成29年1月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比15.0%減の351件となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。

内訳をみると、持ち家は微増となったが、貸家と分譲住宅が減少した。



## ③ その他〈主要経済指標〉



### 有効求人



ハローワーク浜松管内における平成29年1月の有効求人倍率は前年比0.09ポイント改善(前月横ばい)の1.47となった。8カ月連続で改善している。全国との比較では0.04ポイント上回り、3カ月連続で全国値を上回った。

### 倒産企業



平成29年1月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は7件、倒産金額は4.9億円となった。倒産件数は6カ月連続で10件を下回っている。

### ガソリン価格



平成29年1月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり131.9円で前月比4.5円上昇した。前年同月と比較すると9.6円高くなっている。

### 外国為替



平成29年1月の外国為替は1ドル114.73円となった。前年同月と比較すると3.52円の円高となっている。平成28年11月の米国大統領戦後の円安基調が一巡、足元では113~115円の範囲で推移している。

# 浜松地域の経済動向

—平成29年2月を中心に—

## 自動車生産 2カ月連続大幅増

2017.

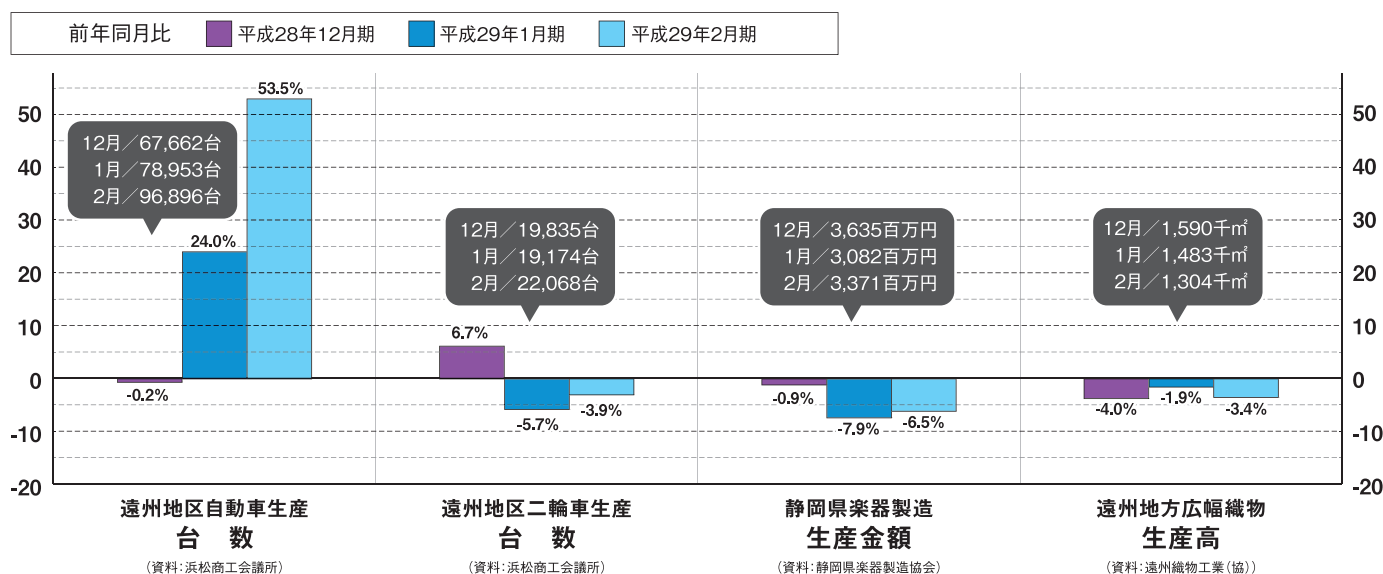
05

2017年5月発行

発行：浜松商工会議所

浜松地域の経済は、総じてみれば緩やかに回復している。自動車生産が前年比大幅増となっていることに加え、大河ドラマ効果も徐々に始まってきている。ただし、足元ではシリアや北朝鮮などを巡る地政学リスクから先行き不透明感が漂ってきている。また、雇用環境は改善という状態を通り越し、業種によっては深刻な人手不足に陥っている。

### ① 製造業〈主要経済指標〉



#### 自動車



平成29年2月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比53.5%増の9.6万台となった。1月にほぼ2年ぶりに前年水準を上回ったが、2月も前年比大幅増となった。足元でも新型車が好調で、増産基調を維持している模様。

国内販売をみても、軽自動車税の引き上げなどで低迷していた軽自動車の販売が上向ってきている。部品関連中小企業の1～3月の受注状況を見ると、受注が増加している企業が多い。ただし、4月以降の先行きは不透明との声も多い。

#### 二輪車



平成29年2月における二輪車生産台数は前年同月比3.9%減の2.2万台となり、2カ月連続で前年同月水準を下回った。

部品関連中小企業では、昨年の熊本地震で受注がストップした反動でフル稼働の企業があるほか、地元(遠州地域)からの受注が好調な企業も多い。

#### 楽器



平成29年2月における楽器生産金額は前年同月比6.5%減の33億円となった。前年同月水準を下回るのは5カ月連続。

分野別に生産台数をみると、ピアノは前年同月比2.9%減の2,876台、電子・電気ピアノは30.7%減の853台、電子オルガンは37.8%増の518台、管楽器は6.1%減の8,676台となった。

#### 繊維



平成29年2月の生産量は前年同月比3.4%減の1,304千㎡となり、4カ月連続して前年同月を下回った。好調だった春夏物の生産が終了した。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



平成29年2月におけるタクシー乗車人員は前年同月比1.3%減の44万人となった。前年同月水準を下回るのは5カ月連続。

### 観光

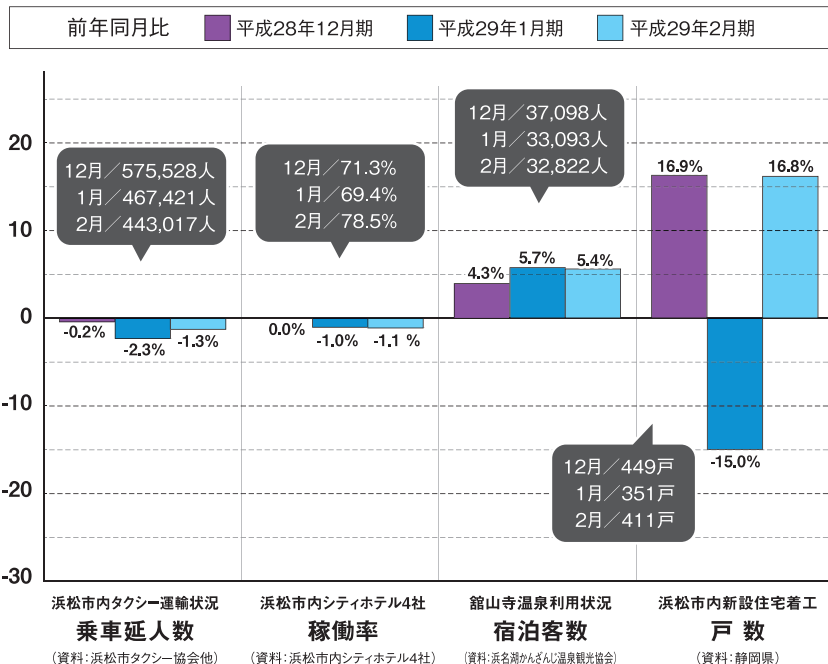


平成29年2月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比1.1ポイント低下の78.5%となった。中国人を中心とした訪日外国人宿泊客増は一巡したものの、前年並みの稼働率を維持している。2月の鶴山寺温泉宿泊客数は前年同月比5.4%増の3万7千人となり、14カ月連続で前年同月を上回った。当地を舞台とした大河ドラマ効果により、シティホテル、鶴山寺温泉とも高水準の稼働が見込まれている。

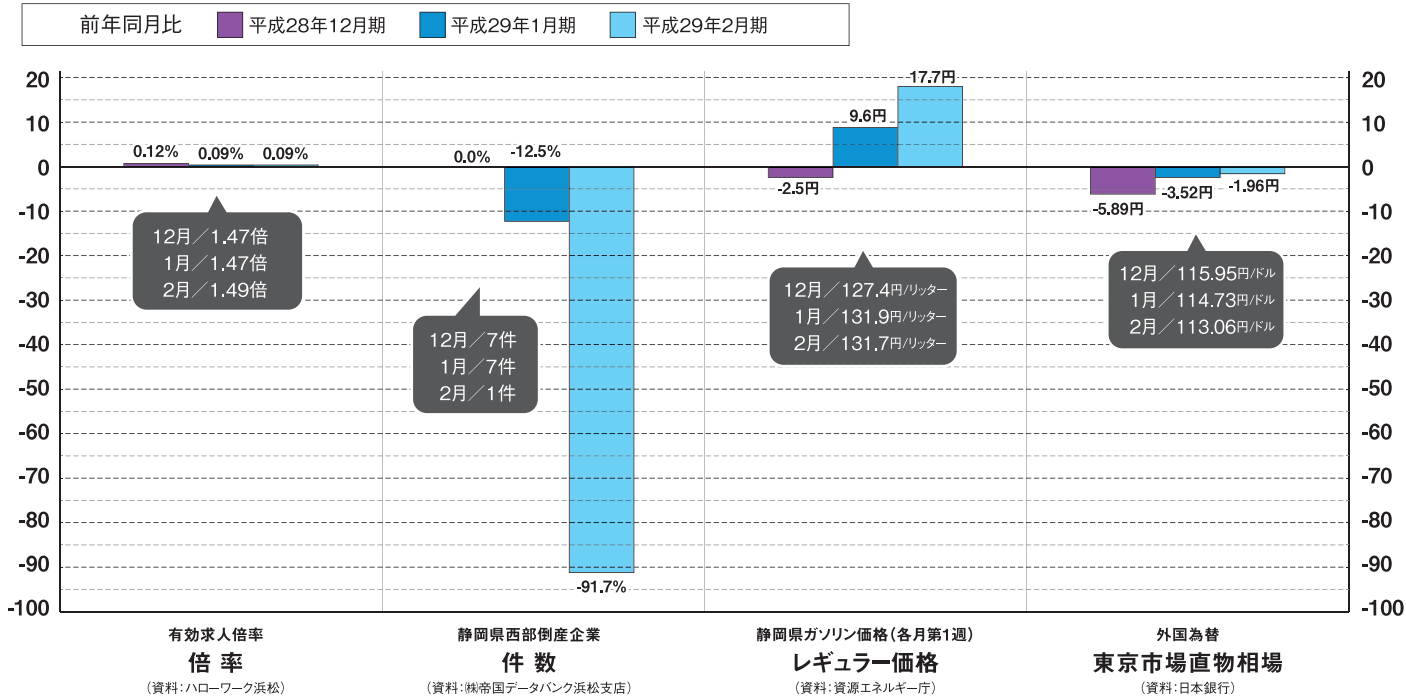
### 住宅着工



平成29年2月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比16.8%増の411件となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。内訳をみると、貸家は減少したが、持ち家と分譲住宅が増加した。



## ③ その他〈主要経済指標〉



### 有効求人



ハローワーク浜松管内における平成29年2月の有効求人倍率は前年比0.09ポイント改善(前月比横ばい)の1.49となった。9カ月連続で改善している。全国との比較では0.06ポイント上回り、4カ月連続で全国値を上回った。

### 倒産企業



平成29年2月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は1件、倒産金額は6千4百万円となった。倒産件数は7カ月連続で10件を下回っている。

### ガソリン価格



平成29年2月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり131.7円で前月比0.2円下落した。下落したとはいえ、前年同月と比較すると17.1円高くなっており、中小企業の収益を圧迫しつつある。

### 外国為替



平成29年2月の外国為替は1ドル113.06円となった。前年同月と比較すると1.96円の円高となっている。足元ではシリアや北朝鮮などを巡る地政学リスクの高まりから、円が買われやすい(円高要因)状況にある。



# 浜松地域の経済動向

—平成29年3月を中心に—

## 自動車生産が堅調に推移。 大河ドラマによる観光客も増加。

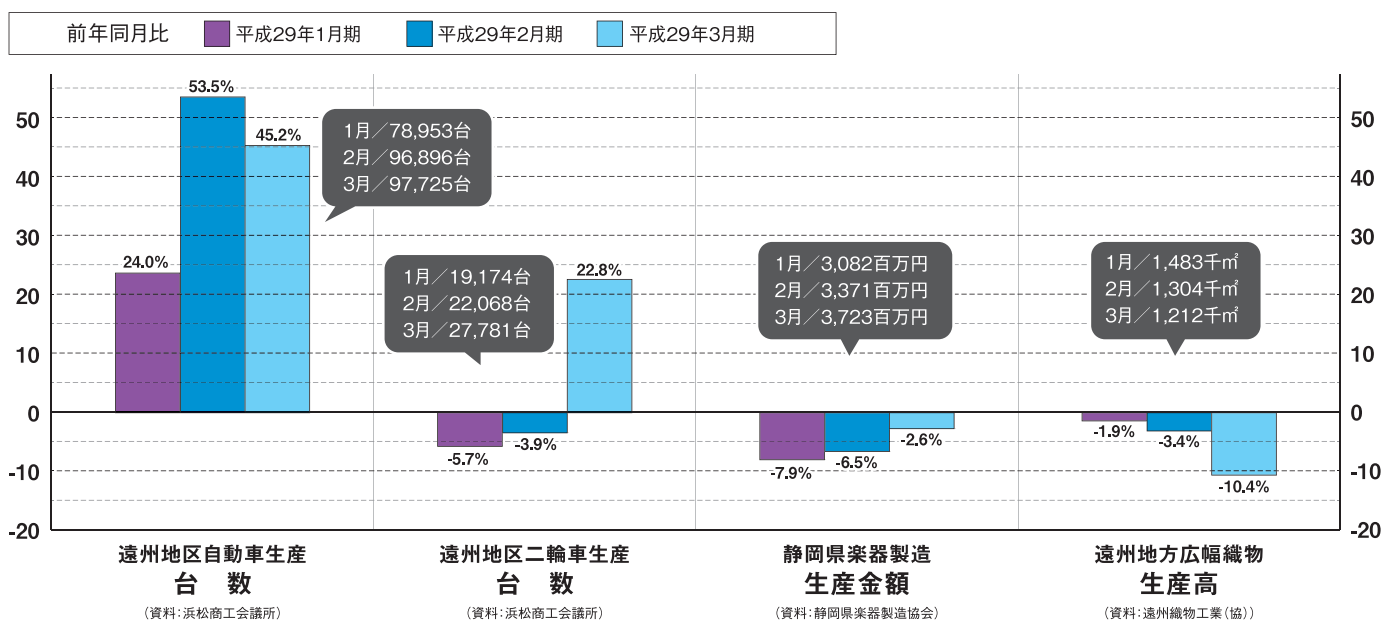
2017.  
**06**

2017年6月発行  
発行：浜松商工会議所

浜松地域の経済は、緩やかに回復している。

自動車生産が堅調に推移している他、大河ドラマによる観光客増加効果も見え始めた。足元では、不確実要因の一つだったフランス大統領選、韓国大統領選挙など海外での政治イベントを無事通過したが、北朝鮮情勢、アメリカの政権運営など不確実要素は依然残っており、現状の回復基調に水を差す懸念もある。また、雇用環境は改善という表現を通り越し、業種によっては、人手不足感が極めて強くなっている。

### ① 製造業〈主要経済指標〉



#### 自動車



平成29年3月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比45.2%増の9.7万台となった。1月にほぼ2年ぶりに前年水準を上回ったが、2月から3月にかけても前年比大幅増となった。足元でも新型車が好調で、増産基調を維持している模様。

国内販売をみても、軽自動車税の引き上げなどで低迷していた軽自動車の販売が上向いてきている。

#### 二輪車



平成29年3月における二輪車生産台数は前年同月比22.8%増の2.7万台となり、3カ月ぶりに前年同月水準を上回った。

平成28年度の実生産台数は前年度比1.3万台増の23.1万台となり、2年ぶりに前年度を上回った。

#### 楽器



平成29年3月におけるピアノ生産台数は前年同月比135台減の3,011台となり、2カ月連続して前年同月を下回った。平成28年度の実生産台数は1,011台増の35,962台となり、2年ぶりに前年度を上回った。

分野別に3月の生産台数をみると、電子オルガンは前年同月比プラス、ピアノ、電子・電気ピアノ、管楽器は前年同月比マイナスとなった。

#### 繊維



平成29年3月の生産量は前年同月比10.4%減の1,212千㎡となり、5カ月連続して前年同月を下回った。

平成28年度の実生産量は前年度比439千㎡減の15,510千㎡となり、2年ぶりに前年度を下回った。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



平成29年3月におけるタクシー乗車人員は前年同月比2.1%増の54万人となった。前年同月水準を上回るのは6カ月ぶり。大河ドラマ効果で観光タクシーが好調。

### 観光



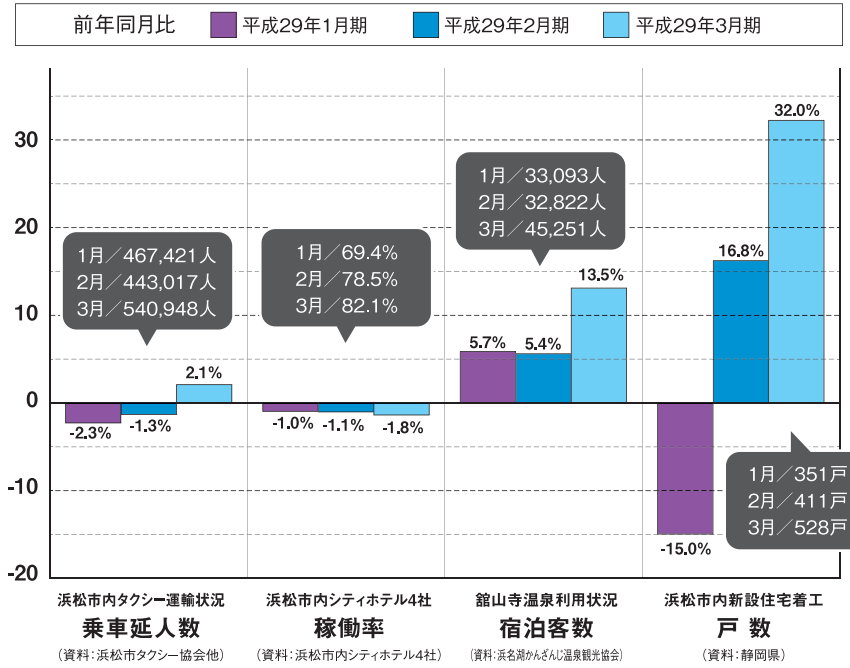
平成29年3月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比1.8ポイント低下の82.1%となった。大河ドラマ館へ向く個人客に加え、団体ツアーも増えつつあり、大河ドラマ効果が波及しつつある。インバウンド需要は昨年ほどの勢いが無い。

平成29年3月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比13.5%増の4.5万人となり、15カ月連続で前年同月を上回った。当地を舞台とした大河ドラマ効果により、シティホテル同様、館山寺温泉も高水準の稼働が続いている。

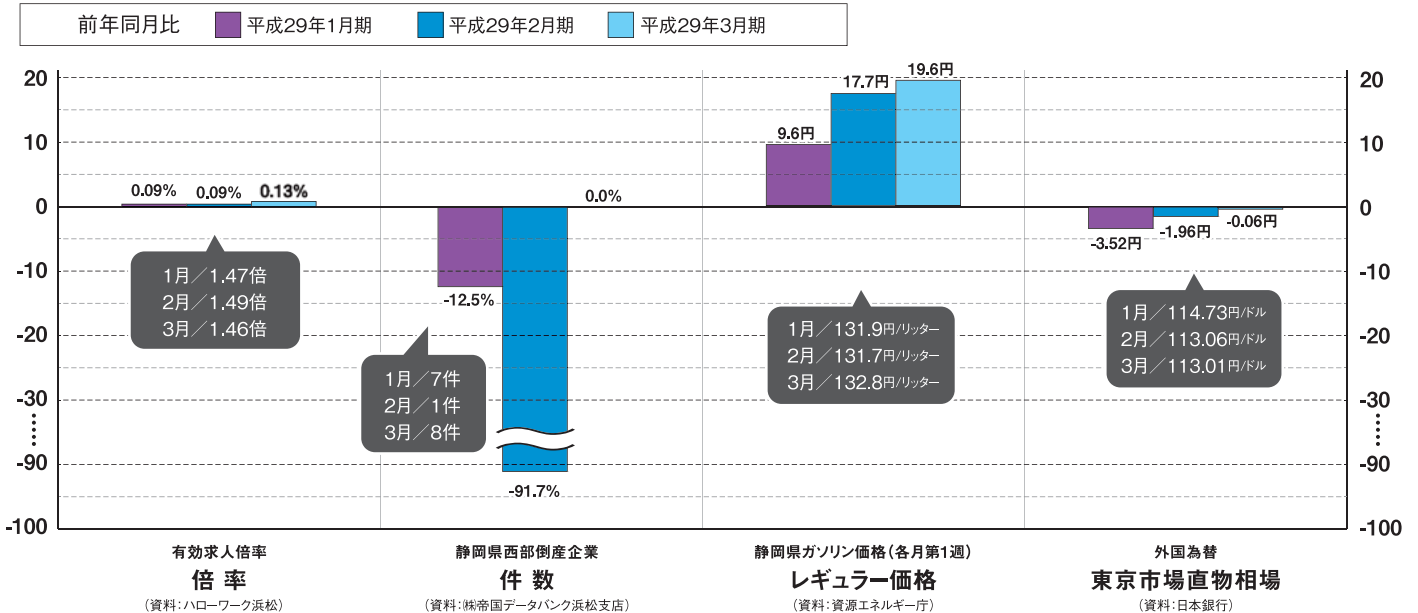
### 住宅着工



平成29年3月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比32.0%増の528件となり、2カ月連続で前年同月を上回った。内訳をみると、持ち家と貸家は減少したが、分譲住宅が大幅に増加した。



## ③ その他〈主要経済指標〉



### 有効求人



ハローワーク浜松管内における平成29年3月の有効求人倍率は前月比0.03ポイント悪化の1.46となった。全国との比較では0.01ポイント上回り、5カ月連続で全国値を上回った。ただし、浜松管内の有効求人倍率は季節調整していないため、例年、4月以降の数カ月間は定年退職者の増加によって有効求人倍率は悪化するとみられる。

### 倒産企業



平成29年3月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は8件、負債総額は大口の特別清算(42.5億円)があったため、51億円と前年同月を大幅に上回った。倒産件数は8カ月連続で10件を下回っている。

### ガソリン価格



平成29年3月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり132.8円で前月比1.1円上昇した。

### 外国為替



平成29年3月の外国為替は1ドル113.01円となった。前年同月と比較すると0.06円の円高となっている。4月半ばに1ドル108円程度まで円高が進んだが、足元ではシリアや北朝鮮などを巡る地政学リスクの落ち着きや、フランス大統領を無事通過したことから円安水準に振れている。

# 浜松地域の経済動向

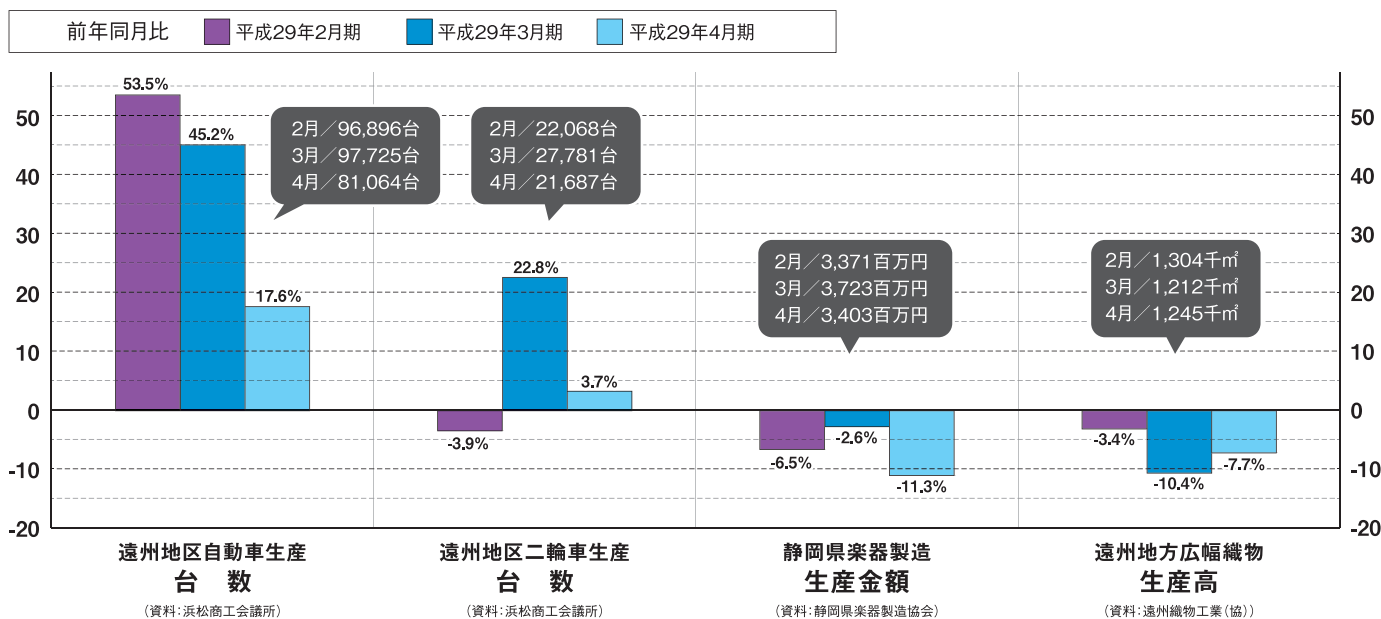
—平成29年4月を中心に—

## 自動車生産は引き続き好調。 大河ドラマによる観光客増加効果で 館山寺温泉が堅調

2017.  
**07**  
2017年7月発行  
発行：浜松商工会議所

浜松地域の経済は、緩やかに回復基調を維持している。自動車生産が引き続き堅調に推移している他、大河ドラマによる観光客増加効果も館山寺温泉を中心に顕著となってきた。足元では、イギリス総選挙、アメリカ追加利上げなど海外でのイベントを通過したが、地政学リスク、アメリカの政権運営など不確実要素は依然残っており、現状の回復基調に水を差す懸念もある。また、雇用環境は引き続きタイトな状況が続いており、業種を問わず人手不足感が強くなっている。

### ① 製造業〈主要経済指標〉



#### 自動車



平成29年4月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比17.6%増の8.1万台となった。1月にほぼ2年ぶりに前年水準を上回り、2～4月にかけても前年比二桁増で推移した。足元でも増産基調を維持している模様。

国内販売をみても、軽自動車税の引き上げなどで低迷していた軽自動車の販売が好調に推移している。

#### 二輪車



平成29年4月における二輪車生産台数は前年同月比3.7%増の2.1万台となり、2カ月連続で前年同月水準を上回った。

内訳をみると、輸出は前年同月比マイナスとなったが、国内向けが堅調に推移している。

#### 楽器



平成29年4月における生産金額は前年同月比11.3%減の34億円となり、7カ月連続して前年同月を下回った。

分野別に4月の生産台数をみると、電子オルガンは前年同月比プラス、ピアノ、電子・電気ピアノ、管楽器は前年同月比マイナスとなった。

#### 繊維



平成29年3月の生産量は前年同月比7.7%減の1,245千㎡となり、6カ月連続して前年同月を下回った。

春夏物の生産が3月末で終了。現在、秋冬物に移行しており、綿織物中心の遠州地域の生産は一服する見込みとなっている。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



平成29年4月におけるタクシー乗車人員は前年同月比3.7%減の47万人となった。前年同月水準を下回るのは2カ月ぶり。大河ドラマ効果で観光タクシーや、龍潭寺、大河ドラマ館などでの発着運行回数は増加している模様だが、全体を押し上げるにいたっていない。

### 観光



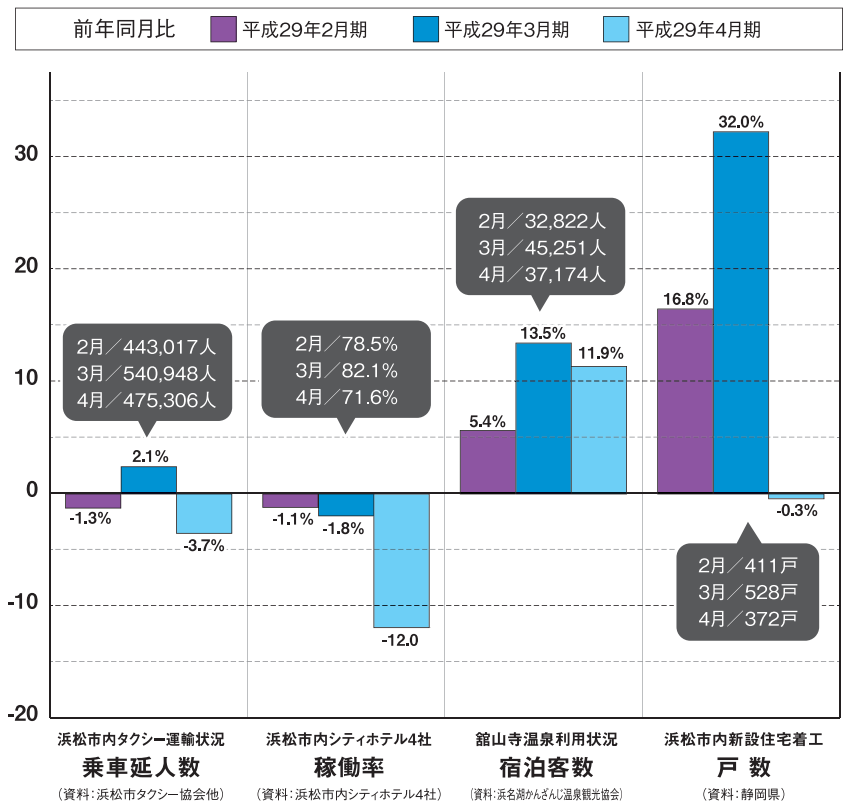
平成29年4月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比12.0ポイント低下の71.6%となった。大河ドラマ館へ出向く個人客に加え、大河ドラマ効果が波及しつつあるが、インバウンド需要が低迷し全体を押し下げた。

平成29年4月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比11.9%増の3.7万人となり、16カ月連続で前年同月を上回った。大河ドラマ効果により、高水準の稼働が続いている。大河ドラマ関連団体ツアーは浜松市内中心部のシティホテルよりも館山寺方面に宿泊するケースが多い。

### 住宅着工



平成29年4月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比0.3%減の372件となり、3カ月ぶりに前年同月を下回った。内訳をみると、持ち家は微増、分譲住宅もマンション着工が貢献し大幅に増加したが、貸家が大幅に減少した。



## ③ その他〈主要経済指標〉

### 有効求人



ハローワーク浜松管内における平成29年4月の有効求人倍率は前年同月比の0.13ポイント改善の1.33となった。前月と比較すると倍率は低下しているが、これは浜松管内の有効求人倍率は季節調整しておらず、例年、4月以降の数カ月間は定年退職者の増加によって有効求人倍率は悪化する傾向がみられるため。依然労働需給はタイトな状況が続いている。

### 倒産企業



平成29年4月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は9件、負債総額は大口の破産(30億円)があったため、36億円と前年同月を大幅に上回った。倒産件数は9カ月連続で10件を下回っている。

### ガソリン価格

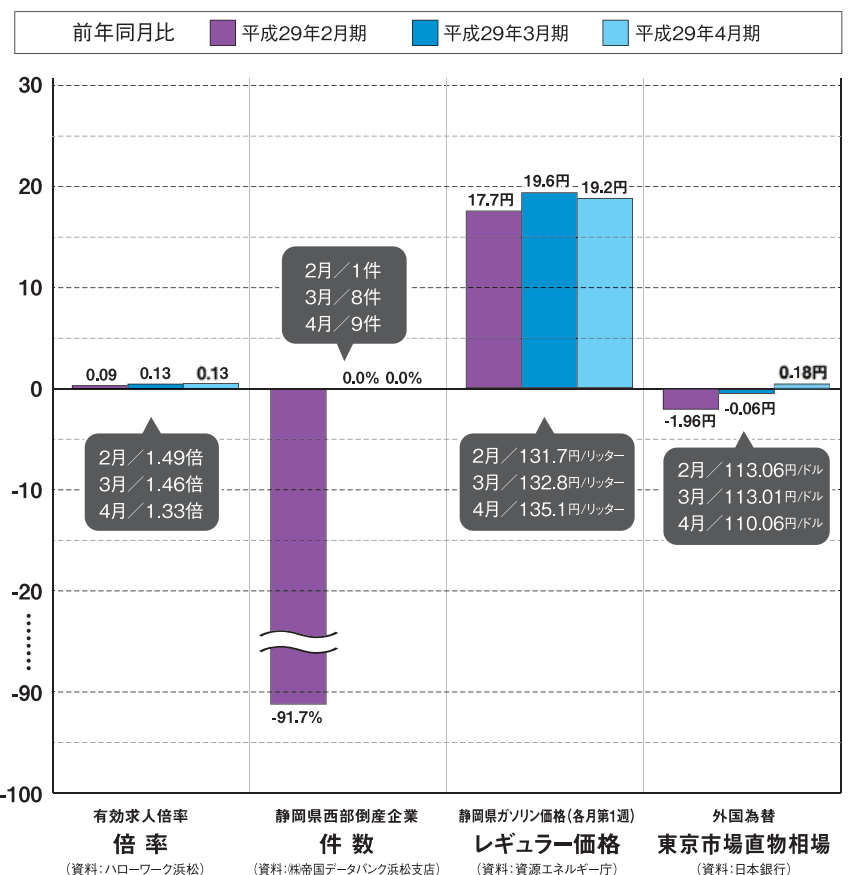


平成29年4月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり135.1円で前月比2.3円上昇(前年比では19.2円上昇)した。

### 外国為替



平成29年3月の外国為替は1ドル110.06円となった。前年同月と比較すると0.18円の円安となっている。足元でも110円前後で推移している。





# 浜松地域の経済動向

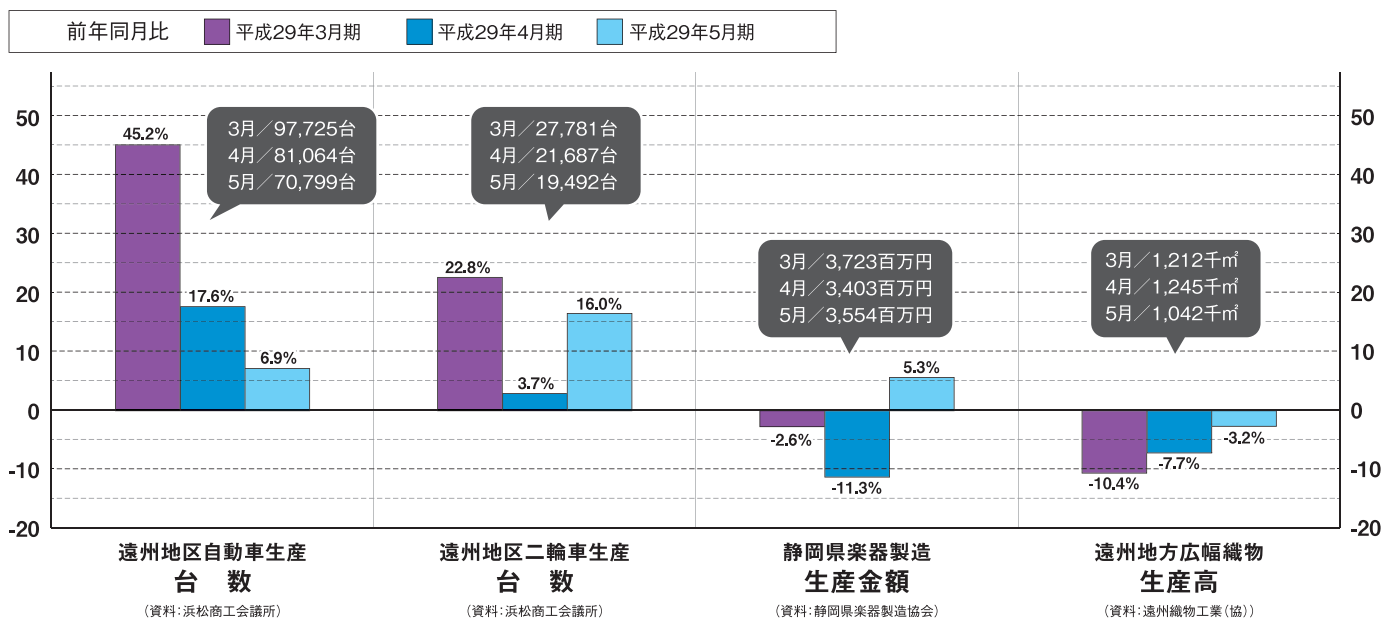
—平成29年5月を中心に—

## 大河ドラマによる観光客増加効果で 館山寺温泉が前年比2桁増

2017.  
**08**  
2017年8月発行  
発行：浜松商工会議所

浜松地域の経済は、回復基調を維持している。自動車生産が引き続き堅調に推移している他、大河ドラマによる観光客増加効果も館山寺温泉を中心に顕著となってきた。今後は景気をけん引している業種から幅広い業種に回復基調が波及し個人所得も増大していくような好循環が生まれるかが課題となってくる。また、雇用環境は引き続きタイトな状況が続いており、業種を問わず人手不足感が強くなっている。

### ① 製造業〈主要経済指標〉



#### 自動車



平成29年5月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比6.9%増の7.0万台となった。1月にほぼ2年ぶりに前年水準を上回って以降、前年同月を上回って推移している。部品加工メーカーからは「新型車の増産により受注増となっている」「北米からの仕事が増加している」といった声がかかれた。国内販売をみても、軽自動車税の引き上げなどで低迷していた軽自動車の販売が好調に推移している。

#### 二輪車



平成29年5月における二輪車生産台数は前年同月比16.0%増の1.9万台となり、3カ月連続で前年同月水準を上回った。内訳をみると、国内向け、輸出とも堅調に推移した。部品加工メーカーからは「北米向けの新機種が売れている」「海外生産のものが少しずつ国内生産（熊本）にシフトしており追い風要因となっている」といった声がかかれた。

#### 楽器



平成29年5月における生産金額は前年同月比5.3%増の35億円となり、8カ月ぶりに前年同月を上回った。分野別に5月の生産台数をみると、ピアノ、電子オルガンは前年同月比プラス、電子・電気ピアノ、管楽器は前年同月比マイナスとなった。

#### 繊維



平成29年5月の生産量は前年同月比3.2%減の1,042千㎡となり、7カ月連続して前年同月を下回った。春夏物の生産が3月末で終了。現在、秋冬物に移行しており、綿織物中心の遠州地域の生産は一服している。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



平成29年5月におけるタクシー乗車人員は前年同月比2.3%減の49万人となった。前年同月水準を下回るのは2カ月連続。大河ドラマ効果で観光タクシーや、龍潭寺、大河ドラマ館などでの発着運行回数は増加している模様だが、全体を押し上げるにいたっていない。

### 観光



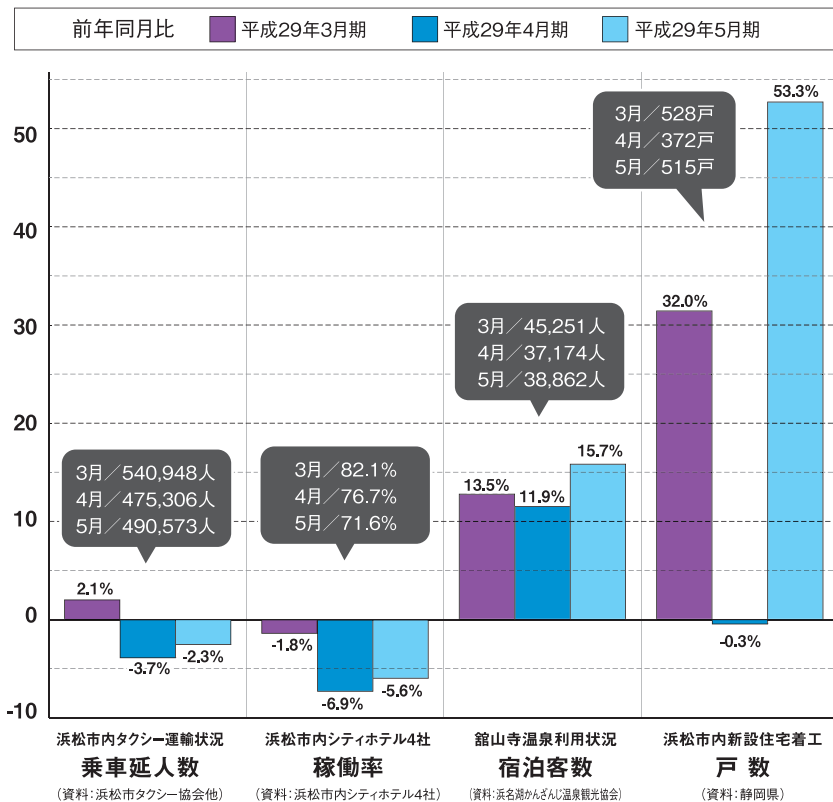
平成29年5月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比5.6ポイント低下の71.6%となった。GWは曜日の並びがよく、浜松まつりと直虎観光の個人利用客は増加したが、インバウンドが大幅に減少した。

平成29年5月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比15.7%増の3.8万人となり、3カ月連続で前年同月2桁増となった。大河ドラマ効果により、高水準の稼働が続いている。大河ドラマ関連団体ツアーは浜松市内中心部のシティホテルよりも館山寺方面に宿泊するケースが多い。

### 住宅着工



平成29年5月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比53.3%増の515件となり、2カ月ぶりに前年同月を上回った。内訳をみると、持ち家・貸家が大幅に増加、分譲はほぼ横ばいとなった。



## ③ その他〈主要経済指標〉

### 有効求人



ハローワーク浜松管内における平成29年5月の有効求人倍率は前年同月比の0.18ポイント改善の1.30となった。

前月と比較すると倍率は低下しているが、これは浜松管内の有効求人倍率は季節調整しておらず、例年、4月以降の数カ月間は定年退職者の増加によって有効求人倍率は悪化する傾向がみられるため。依然労働需給はタイトな状況が続いている。

### 倒産企業



平成29年5月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は7件、負債総額は5.7億円となった。倒産件数は10カ月連続で10件を下回っている。

### ガソリン価格

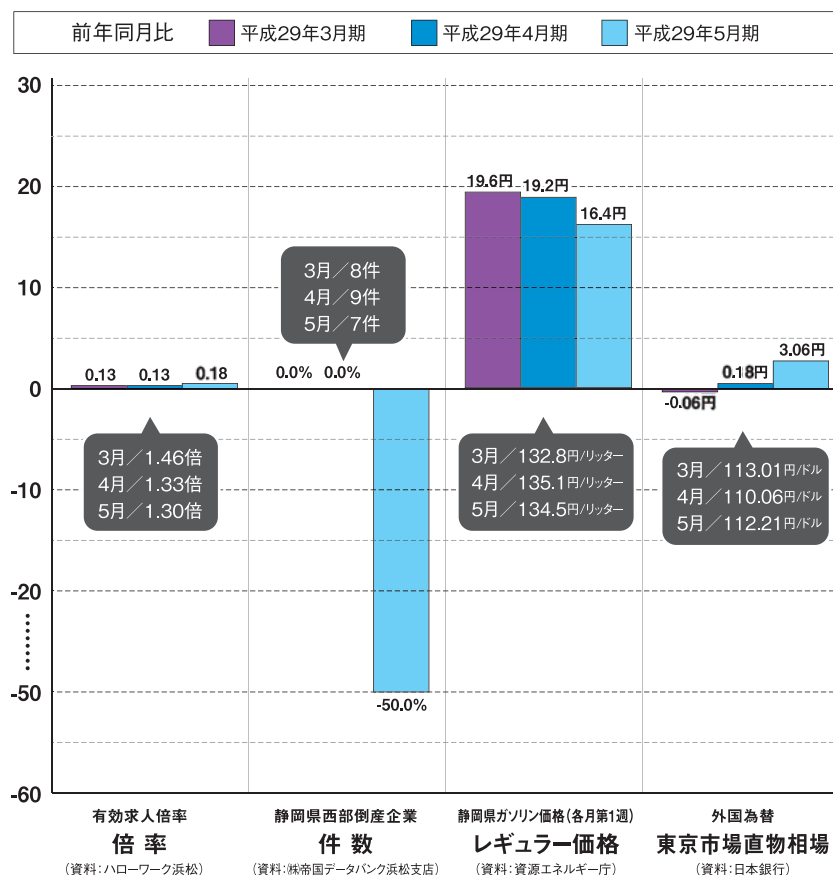


平成29年5月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり134.5円で前月比0.6円下落(前年比では16.4円上昇)した。

### 外国為替



平成29年5月の外国為替は1ドル112.21円となった。前年同月と比較すると3.06円の円安となっている。



# 浜松地域の経済動向

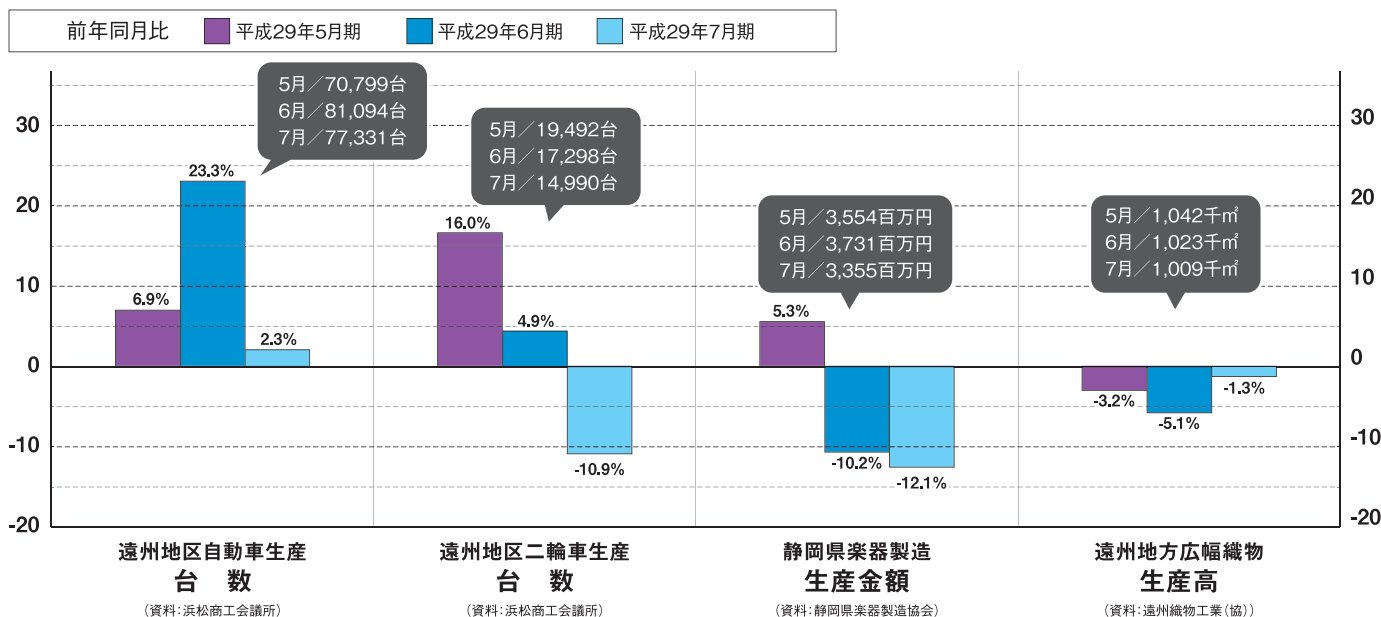
—平成29年7月を中心に—

**自動車生産は引き続き好調。  
大河ドラマ効果も持続。幅広い分野に  
景気回復感が広がることを期待**

2017.  
**10**  
2017年10月発行  
発行：浜松商工会議所

浜松地域の経済は、回復基調を維持している。自動車生産が引き続き堅調に推移している他、大河ドラマによる観光客増加効果も持続している。依然、業種間で景況感に差がみられるが、幅広い分野に景気回復感が波及しつつある。引き続き回復基調を見込むが、足元では北朝鮮情勢への警戒から不透明感が増しており、現状の回復基調に水を差す懸念も残っている。

## ① 製造業〈主要経済指標〉



### 自動車



平成29年7月における遠州地区の自動車生産台数は、前年同月比2.3%増の7.7万台となった。1月にほぼ2年ぶりに前年水準を上回って以降、前年同月を上回って推移している。前年同月比の増加幅はやや縮小してきたが、依然高水準の操業を維持している。

国内販売をみても、軽自動車税の引き上げなどで低迷していた軽自動車の販売が好調に推移。部品加工メーカーの受注動向も企業によりばらつきはあるものの、概ね堅調な模様。国内向けに加え、アジア向けの受注が増えているという声もきかれた。

### 二輪車



平成29年7月における二輪車生産台数は前年同月比10.9%減の1.5万台となり、5カ月振りに前年同月水準を下回った。内需向け、輸出向けとも前年同月水準を下回ったが、輸出向けの減少が大きかった。

部品加工メーカーによると、二輪部品に加え、船外機やバギー車関連の受注も良好な模様。海外から仕事が国内に戻ってきているという声もきかれた。

### 楽器



平成29年7月における生産金額は前年同月比12.1%減の33億円となり、2カ月連続で前年同月を下回った。

分野別に7月の生産台数をみると、電子・電気ピアノは前年同月水準を上回ったが、ピアノ、電子オルガン、管楽器は前年同月比マイナスとなった。

### 繊維



平成29年7月の生産量は前年同月比1.3%減の1,009千㎡となり、9カ月連続して前年同月を下回った。

例年7～8月は端境期となり仕事量は少なくなる。9月以降、春夏物パレル衣料の生産が本格化する見込み。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



平成29年7月におけるタクシー乗車人員は前年同月比2.6%減の50万人となった。前年同月水準を下回るのは4カ月連続。大河ドラマ効果で観光タクシーや、龍潭寺、大河ドラマ館などでの発着運行回数は増加している様だが、全体を押し上げるにいたっていない。

### 観光



平成29年7月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比1.8ポイント低下の81.3%となった。低迷していたが好調に推移。7月後半は家族連れの利用や直虎関連の観光客が多かった。

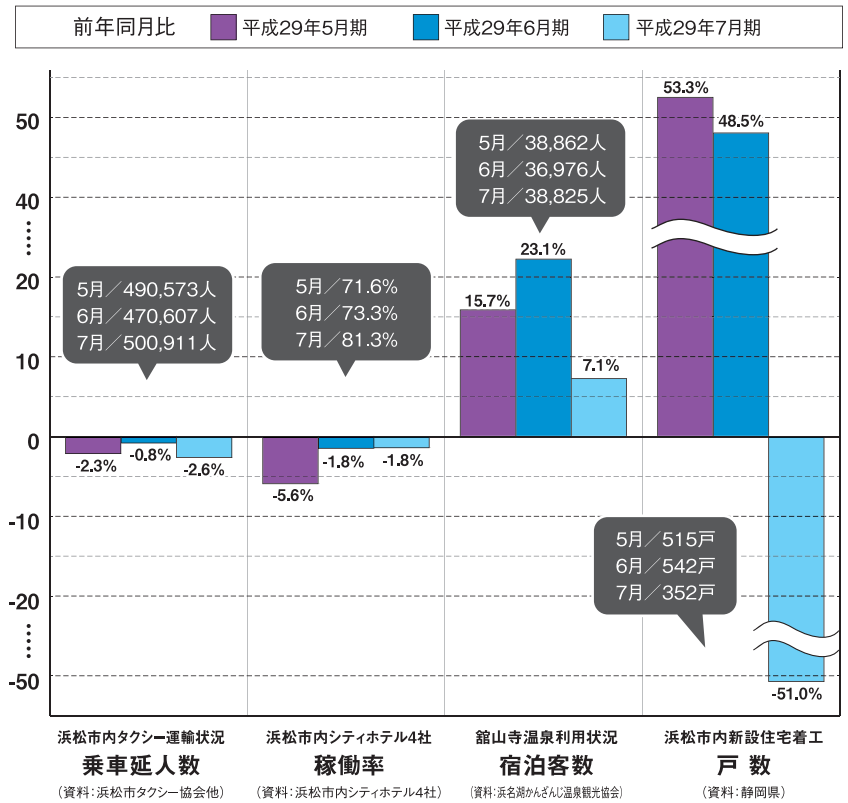
平成29年7月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比7.1%増の3.8万人となった。3月～6月にかけて4カ月連続で前年比2桁増となっていたが、7月は1桁台の増加にとどまった。ただし、実数を見ると、前月(6月)を上回っており、依然大河ドラマ効果により、高水準の稼働が続いているといえる。

### 住宅着工



平成29年7月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比51.0%減の352件となり、3カ月振りに前年同月を下回った。

5月が53.3%増、6月が48.5%増と2カ月連続で大幅増になった反動があった模様。1～7月の累計では前年を上回っている。



## ③ その他〈主要経済指標〉

### 有効求人



ハローワーク浜松管内における平成29年7月の有効求人倍率は前年同月比の0.24ポイント改善の1.45となった。全国や静岡県と比較すると有効求人倍率は低いが、これは浜松管内の有効求人倍率は季節調整しておらず、例年、4月以降の数カ月間は定年退職者の増加によって有効求人倍率は悪化する傾向がみられるため。依然労働需給はタイトな状況が続いており、7月以降も有効求人倍率は上昇している。

### 倒産企業



平成29年7月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は6件、負債総額は17.7億円となった。倒産件数は12カ月連続で10件を下回っている。負債総額10億円を超える大型倒産はなかったが、4～6億円の倒産が複数(いずれも破産)あった。

### ガソリン価格

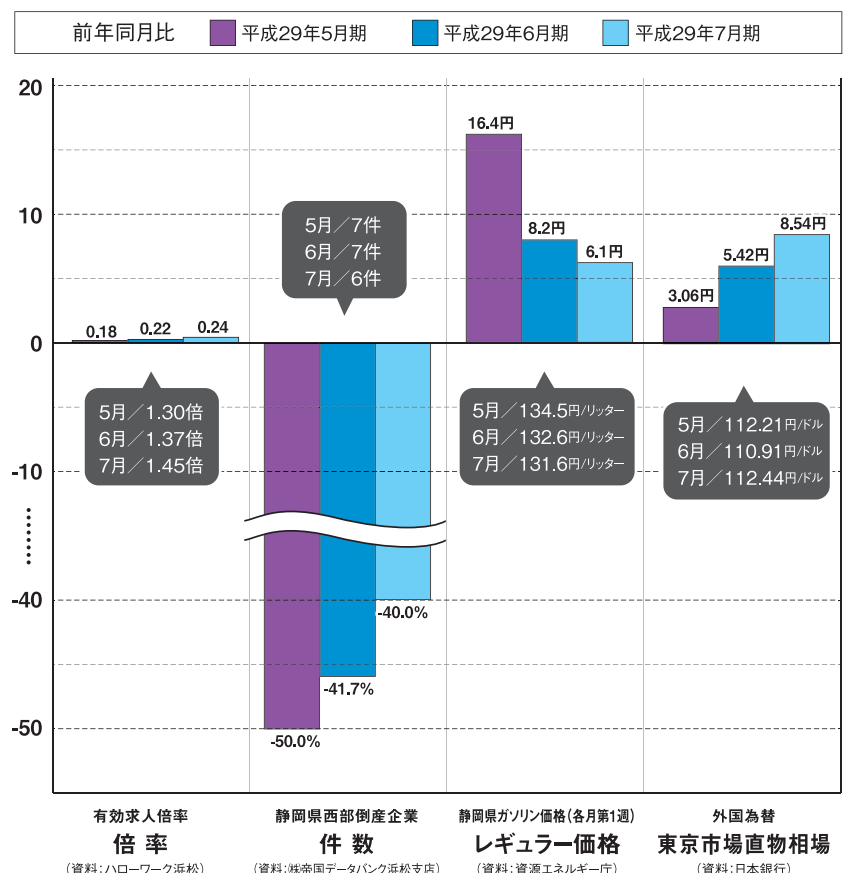


平成29年7月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり131.6円で前月比1.0円下落(前年比では6.1円上昇)した。

### 外国為替



平成29年7月の外国為替は1ドル112.44円となった。前年同月と比較すると8.54円の円安となっている。足元では北朝鮮を中心とした地政学リスク、欧米の金融政策の影響などにより、7月時点よりも円高水準で推移している。





# 浜松地域の経済動向

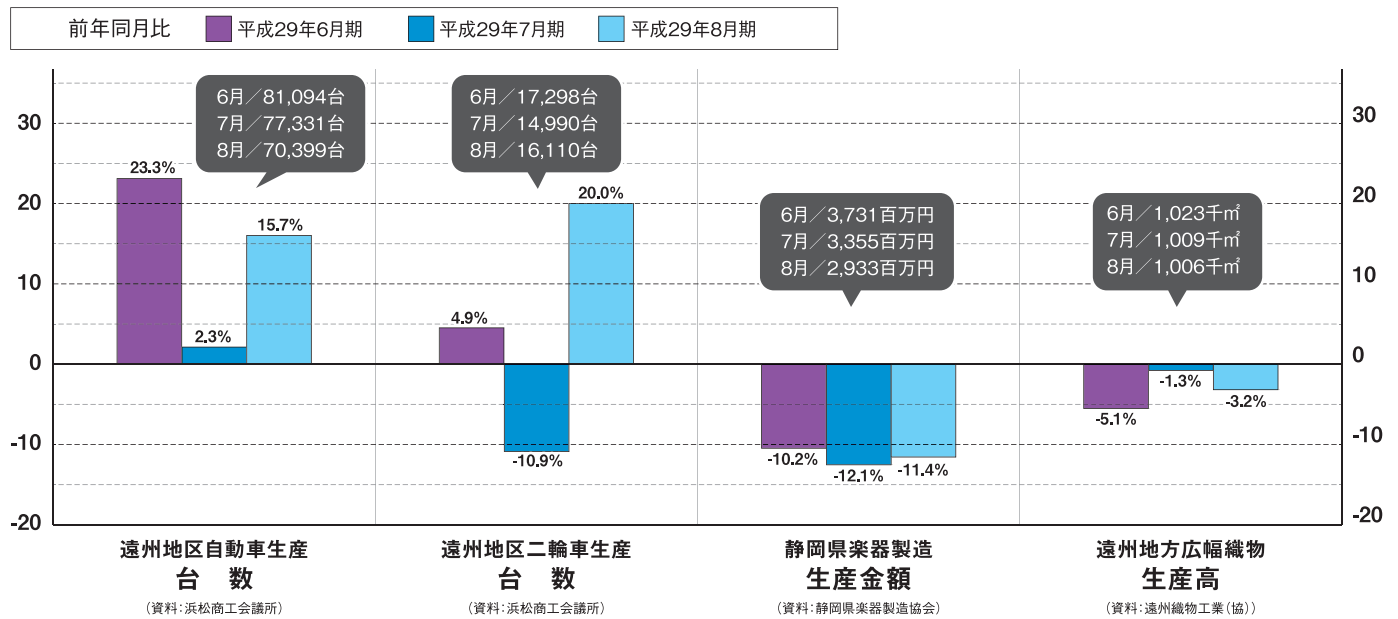
—平成29年8月を中心に—

**自動車生産は引き続き好調。大河ドラマ効果も持続。  
幅広い分野に景気回復感が  
広がりにつつある。**



浜松地域の経済は、回復基調を維持している。自動車生産が国内向け・輸出とも堅調に推移しているほか、大河ドラマによる観光客増加効果も持続している。幅広い分野に景気回復感が波及しつつあるが、小規模企業は依然回復感に乏しい状況にある。引き続き回復基調を見込むが、足元では北朝鮮情勢への警戒から不透明感が増しているほか、本稿執筆時点では衆議院選挙の行方も定まっておらず、選挙結果次第では金融市場が混乱する懸念もある。

## ① 製造業〈主要経済指標〉



### 自動車



平成29年8月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比15.7%増の7.0万台となった。1月にほぼ2年ぶりに前年水準を上回って以降、前年同月を上回って推移している。主力の国内向けが底堅いことに加え、輸出が13カ月連続で2桁増と好調を維持している。国内販売をみても、軽自動車税の引き上げなどで低迷していた軽自動車の販売が好調に推移。部品加工メーカーの受注動向も好調を維持しているが、人手不足感が強くなってきている。

### 二輪車



平成29年8月における二輪車生産台数は前年同月比20.0%増の1.6万台となり、2カ月振りに前年同月水準を上回った。内需向けは前年同月水準を下回ったが、主力の輸出向けが堅調だった。部品メーカーからは、「夏休み以降、受注が急増した」「親会社との価格交渉に成功した」といったコメントが聞かれた。

### 楽器



平成29年8月における生産金額は前年同月比11.4%減の29億円となり、3カ月連続で前年同月を下回った。分野別に8月の生産台数をみると、ピアノ、電子・電気ピアノ、電子オルガン、管楽器のいずれも前年同月比マイナスとなった。部品メーカーからは、「親会社からの受注は順調である」といった声がある一方、「生産拠点が海外に移転しており、国内の受注は減少している」といった声も聞かれた。

### 繊維



平成29年8月の生産量は前年同月比3.2%減の1,006千㎡となり、10カ月連続して前年同月を下回った。来春夏向けの生産に向けての準備が進められている。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



平成29年8月におけるタクシー乗車人員は前年同月比0.8%増の49万人となった。前年同月水準を上回るのは4カ月振り。大河ドラマ効果で観光タクシーや、龍潭寺、大河ドラマ館などでの発着運行回数は増加している様だが、全体を押し上げるにいたっていない。

### 観光



平成29年8月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比1.1ポイント低下の88.3%となった。前年同月比低下したとはいえ、稼働率の水準は高い。国内旅行、学生の合宿関係、インバウンドとも好調だった。

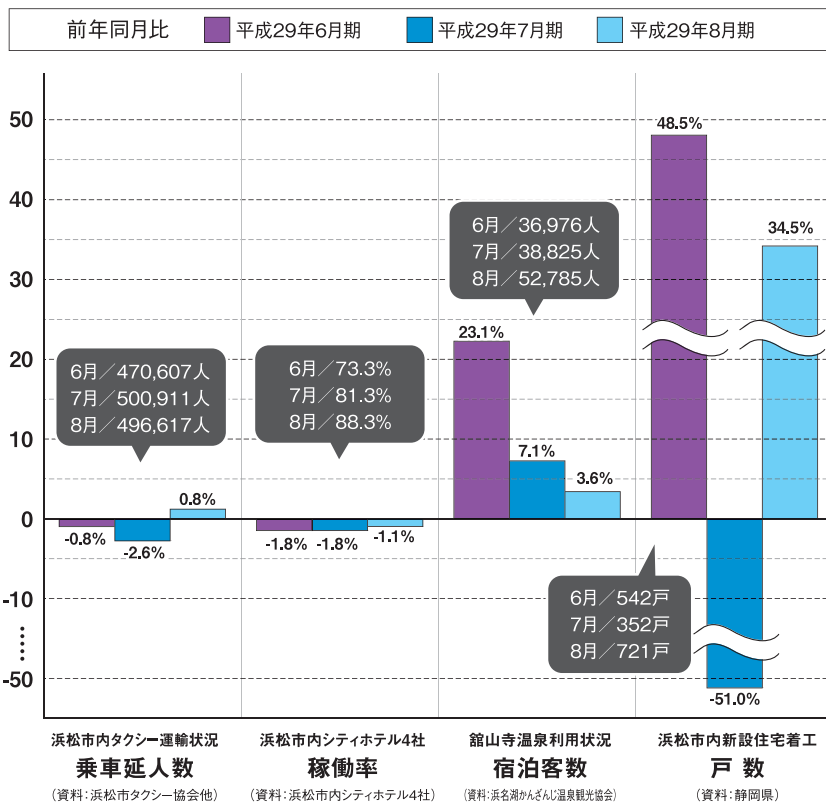
平成29年8月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比3.6%増の5.2万人となった。3月～6月にかけて4カ月連続で前年比2桁増となっていたが、7～8月は1桁台の増加にとどまり勢いは鈍化している。ただし、実数をみると、平成21年以降で最も多い月間宿泊者数を記録、大河ドラマ効果により、高水準の稼働が続いているといえる。

### 住宅着工



平成29年8月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比34.5%増の721件となり、2カ月振りに前年同月を上回った。

7月が前年同月比51.0%減と大幅減となっており、その反動があった模様。1～8月の累計でも前年水準を上回っている。



## ③ その他〈主要経済指標〉

### 有効求人



ハローワーク浜松管内における平成29年8月の有効求人倍率は前年同月比の0.25ポイント改善の1.47となった。全国や静岡県と比較すると有効求人倍率は低いが、これは浜松管内の有効求人倍率は季節調整しておらず、例年、4月以降の数カ月間は定年退職者の増加によって有効求人倍率は悪化する傾向がみられるため。前年比改善幅は拡大基調にあり、人手不足感がさらに強まっていることがうかがえる。

### 倒産企業



平成29年8月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は10件、負債総額は7.5億円となった。倒産件数は13カ月振りに2桁台となった。1～8月の累計では23件(29.5%)減少している。

### ガソリン価格

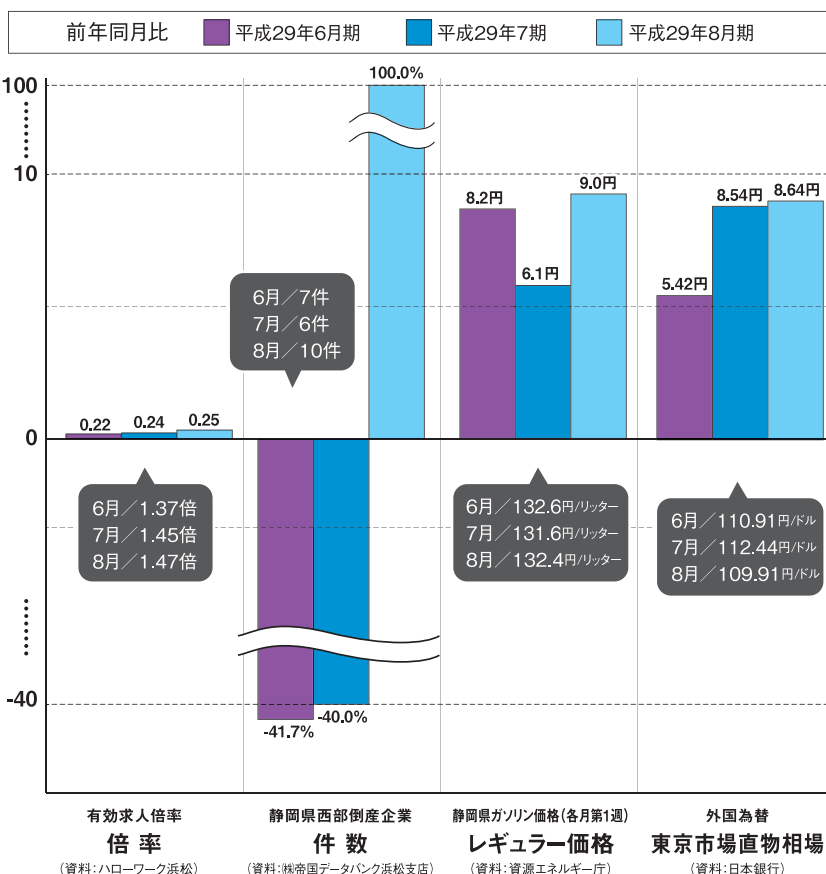


平成29年8月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり132.4円で前月比0.8円上昇(前年比では9.0円上昇)した。このところ130円台前半で推移している。

### 外国為替



平成29年8月の外国為替は1ドル109.91円となった。前年同月と比較すると8.64円の円安となっている。足元では8月時点よりも円安水準で推移している。



# 浜松地域の経済動向

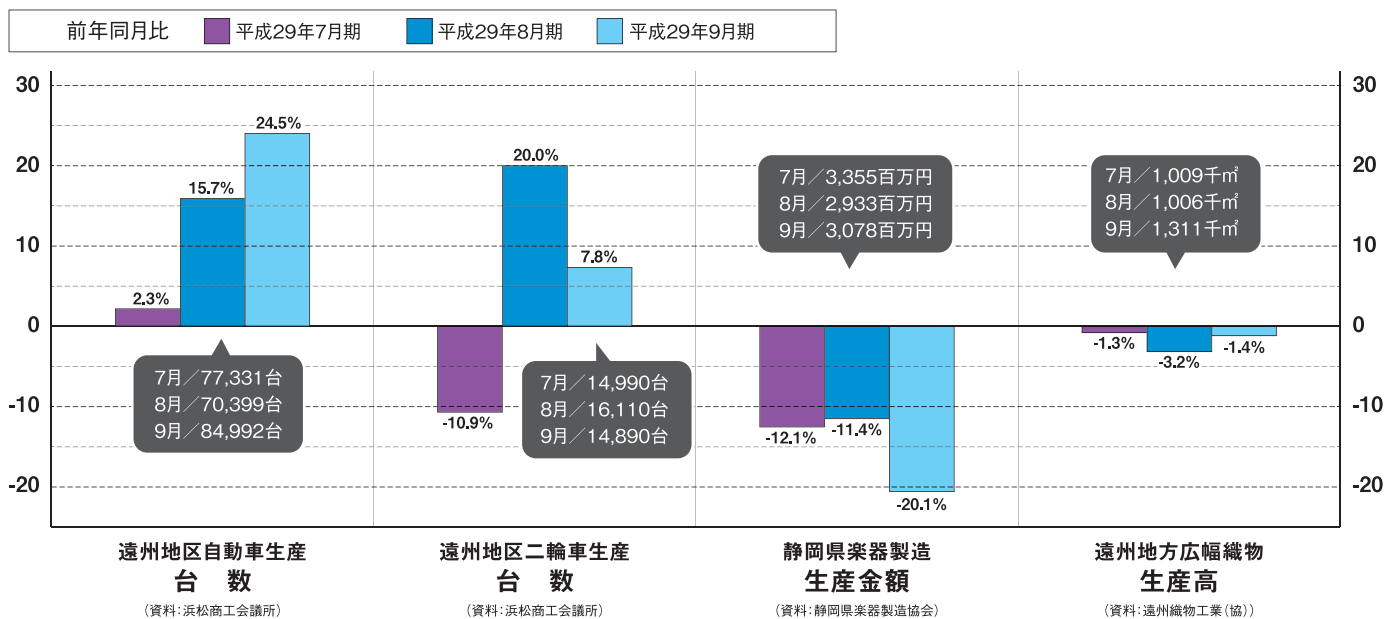
—平成29年9月を中心に—

**景気拡大が続く。  
先行きも拡大基調を見込むが、  
人手不足によるコスト高・供給制約を懸念**



浜松地域の経済は、引き続き緩やかな拡大が続いている。幅広い分野に景気回復感が波及しつつあるが、小規模企業は依然回復感に乏しい状況にある。地元大手輸送用機器メーカーの決算発表は「世界販売過去最高」「過去最高益」「通期見直し上方修正」など好調な結果となった。今後も拡大基調を見込むが、人手不足がコスト高・供給制約をもたらす懸念もある。

## ① 製造業〈主要経済指標〉



### 自動車



平成29年9月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比24.5%増の8.5万台となった。1月にほぼ2年ぶりに前年水準を上回って以降、前年同月を上回って推移している。主力の国内向けが軽自動車・小型車とも底堅いことに加え、輸出が14カ月連続で2桁増と好調を維持している。足元では高操業が続いているが、長期的に電気自動車(EV)の普及が懸念されている。そのため、部品メーカーの中にはEV化対策を進めている企業もある。

### 二輪車



平成29年9月における二輪車生産台数は前年同月比7.8%増の1.4万台となり、2カ月連続で前年同月水準を上回った。内需向けは前年同月水準を下回ったが、主力の輸出向けが堅調だった。上半期(4~9月)の生産台数は前年同期比6千台増の10.4万台となった。人手不足感が強まっており、部品メーカーからは「人材派遣に頼っている」「自動化を進めていきたい」といった声がかかれた。

### 楽器



平成29年9月における生産金額は前年同月比30.7億円となり、4カ月連続で前年同月を下回った。分野別に9月の生産台数をみると、ピアノ、電子・電気ピアノ、電子オルガン、管楽器のいずれも前年同月比マイナスとなった。上半期(4~9月)のピアノ生産台数は前年同期比1,160台減の17,292台となり、2年ぶりに前年同期を下回った。

### 繊維



平成29年9月の生産量は前年同月比1.4%減の1,311千㎡となり、11カ月連続して前年同月を下回った。足元では来春夏シーズン向けの生地生産が本格化してきている。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



平成29年9月におけるタクシー乗車人員は前年同月比3.6%減の46.2万人となった。前年同月水準を下回るのは2カ月振り。大河ドラマ効果で観光タクシーや、龍潭寺、大河ドラマ館などでの発着運行回数は好調のようだが、全体を押し上げるにいたっていない。

### 観光



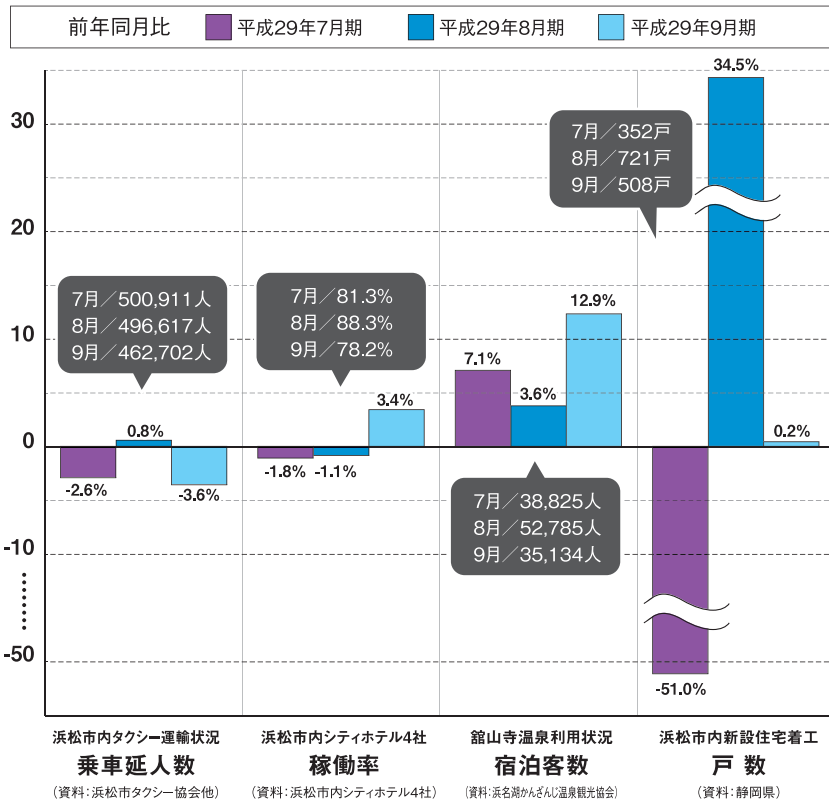
平成29年9月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比3.4ポイント増加の78.2%となった。9月はインバウンドは少し落ち着きを見せたが、大河ドラマ効果の需要が稼働率を下支えた。

平成29年9月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比12.9%増の3.5万人となった。前年同月比プラスは21カ月連続で、3カ月ぶりに2桁増となった。大河ドラマは終盤に入りつつあるが、依然高水準の稼働を維持している。

### 住宅着工



平成29年9月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比0.2%増の508件となり、ほぼ横ばいながらも2カ月連続で前年同月水準を上回った。前年同月と比較して持ち家は減少したものの、貸家、分譲マンションが増加した。



## ③ その他〈主要経済指標〉

### 有効求人



ハローワーク浜松管内における平成29年9月の有効求人倍率は前年同月比の0.25ポイント改善の1.53となった。平成19年12月以来ほぼ10年ぶりの高い倍率となった。業種を問わず人手不足感が強くなっており、人手要因による供給制約がでてきている。

### 倒産企業



平成29年9月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は8件、負債総額は13.9億円となった。今年に入り、倒産件数は8月を除いて1桁台で推移している。

### ガソリン価格

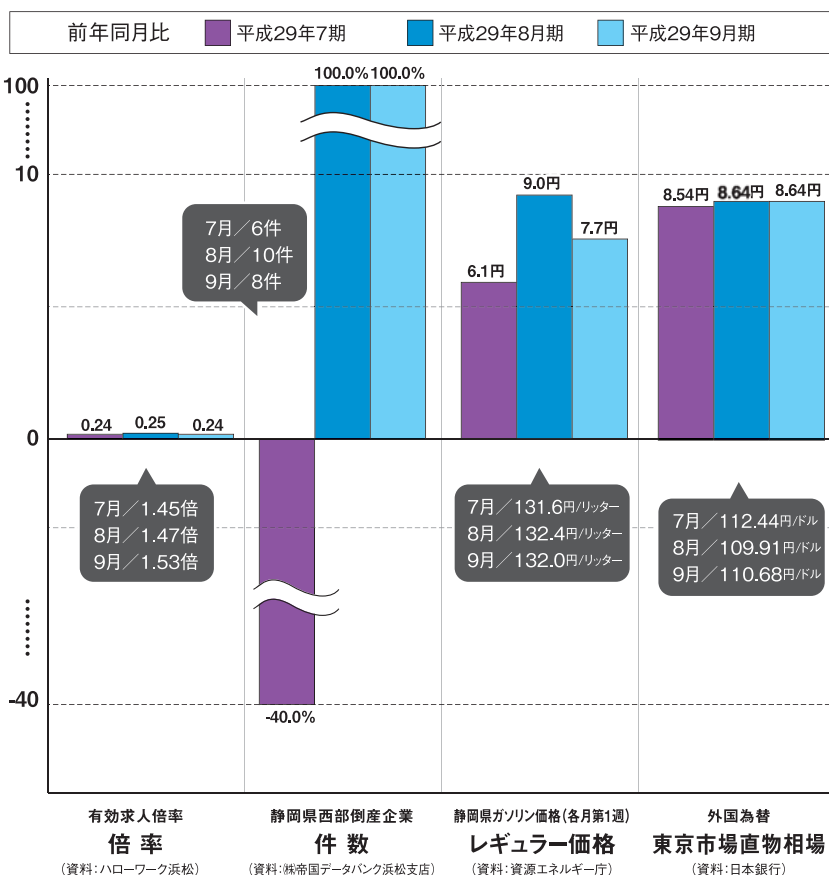


平成29年9月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり132.0円で前月比0.4円下落(前年比では7.7円上昇)した。足元では円安に加え原油価格も上昇しており、ガソリン価格の上昇が懸念されている。

### 外国為替



平成29年9月の外国為替は1ドル110.68円となった。前年同月と比較すると8.64円の円安となっている。足元では8月時点よりも円安水準で推移している。





# 浜松地域の経済動向

—平成29年10月を中心に—

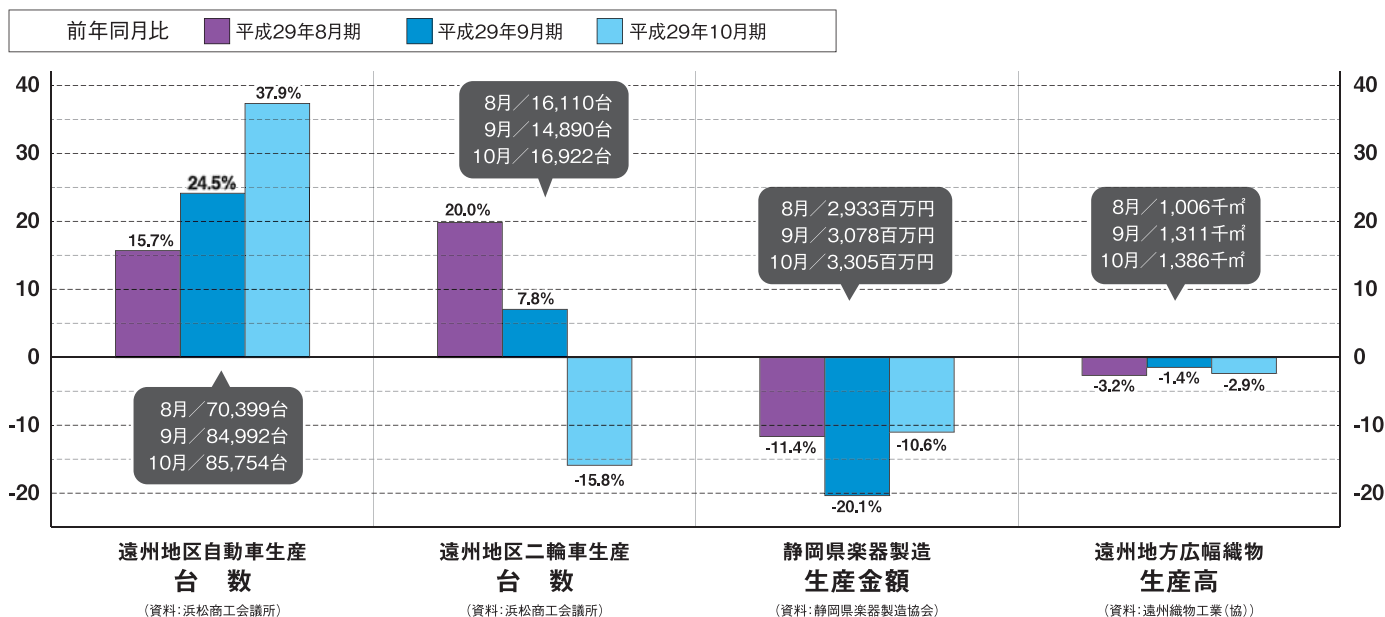
景気拡大が続く。先行きも拡大基調を見込むが、ガソリン高・人件費上昇を懸念。

2018.  
01

2018年1月発行  
発行：浜松商工会議所

浜松地域の経済は、引き続き緩やかな拡大が続いている。製造業が牽引し幅広い業種に景気回復感が波及してきているが、小規模企業は依然回復感に乏しい状況にある。自動車生産が高水準の操業を続けている他、大河ドラマ効果も2017年いっぱいには持続する模様。今後も拡大基調を見込むが、人手不足による人件費上昇やガソリン価格の上昇がコスト高要因となる懸念が出てきている。

## ① 製造業〈主要経済指標〉



### 自動車



2017年10月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比37.9%増の8.6万台となった。17年1月以降、前年同月水準を常に上回り、5月、7月以外は2桁増となっている。主力の国内向けが軽自動車・小型車とも底堅いことに加え、輸出が前年比121.3%増と好調だった。

部品メーカーからは「海外向けが好調」「海外に流出した仕事が国内に戻ってきている」といった声が聞こえ、設備投資も活発になってきている。

### 二輪車



2017年10月における二輪車生産台数は前年同月比15.8%減の1.7万台となり、3カ月振りに前年同月水準を下回った。内需向け・輸出とも前年同月水準を下回った。排気量別でみると、250cc以上は前年同月水準を上回った。

部品メーカーからは「完成車メーカーの好調を受け、売上は順調である」といった声がきかれた。

### 楽器



2017年10月における生産金額は前年同月比10.6%減の33億円となり、5カ月連続で前年同月を下回った。分野別に9月の生産台数をみると、管楽器は前年同月水準を上回ったが、ピアノ、電子・電気ピアノ、電子オルガンは前年同月水準を下回った。中小企業からは「親企業からの受注が好調」といった声もあるが「生産調整をしている」といった声もきかれ、業況はまちまちの状況となっている。

### 繊維



2017年10月の生産量は前年同月比2.9%減の1,386千㎡となり、12カ月連続して前年同月を下回った。足元では来春夏シーズン向けの生地生産が最盛期を迎え、産地内の織布工場もフル稼働となっている模様。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



2017年10月におけるタクシー乗車人員は前年同月比1.8%減の48,200人となった。前年同月水準を下回るの2カ月連続。大河ドラマ効果で観光タクシーや、龍潭寺、大河ドラマ館などでの発着運行回数は好調のようだが、全体を押し上げるにいたっていない。

### 観光



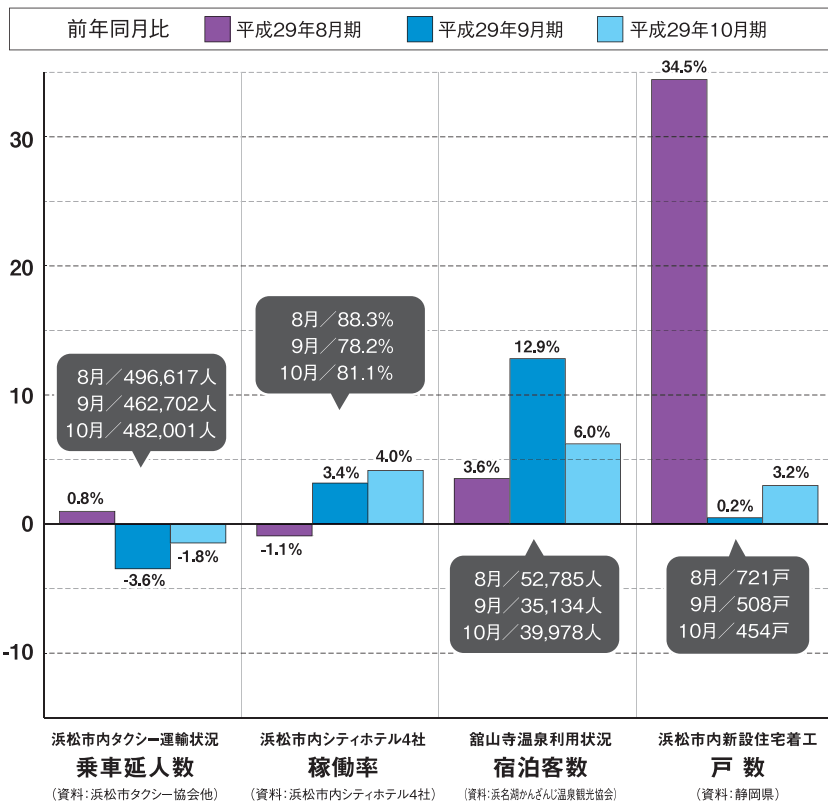
2017年10月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比4.0ポイント増加の81.1%となった。10月のインバウンド需要は昨年並み。秋の行楽と直虎を絡めた観光客が需要を下支えした。

2017年10月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比6.0%増の4.0万人となった。前年同月比プラスは22カ月連続。大河ドラマは終盤を迎えているが、依然高水準の稼働を維持している。

### 住宅着工



2017年10月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比3.2%増の454件となり、3カ月連続で前年同月水準を上回った。前年同月と比較して貸家は減少したものの、持ち家、分譲マンションが増加した。



## ③ その他〈主要経済指標〉

### 有効求人



ハローワーク浜松管内における2017年10月の有効求人倍率は前年同月比の0.27ポイント改善の1.55となった。2007年12月以来ほぼ10年ぶりの高い倍率となった。業種を問わず人手不足感が強くなっており、人手要因による供給制約が目立つようになってきた。

### 倒産企業



2017年10月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は6件、負債総額は5.6億円となった。今年に入り、倒産件数は8月を除いて1桁台で推移している。

### ガソリン価格

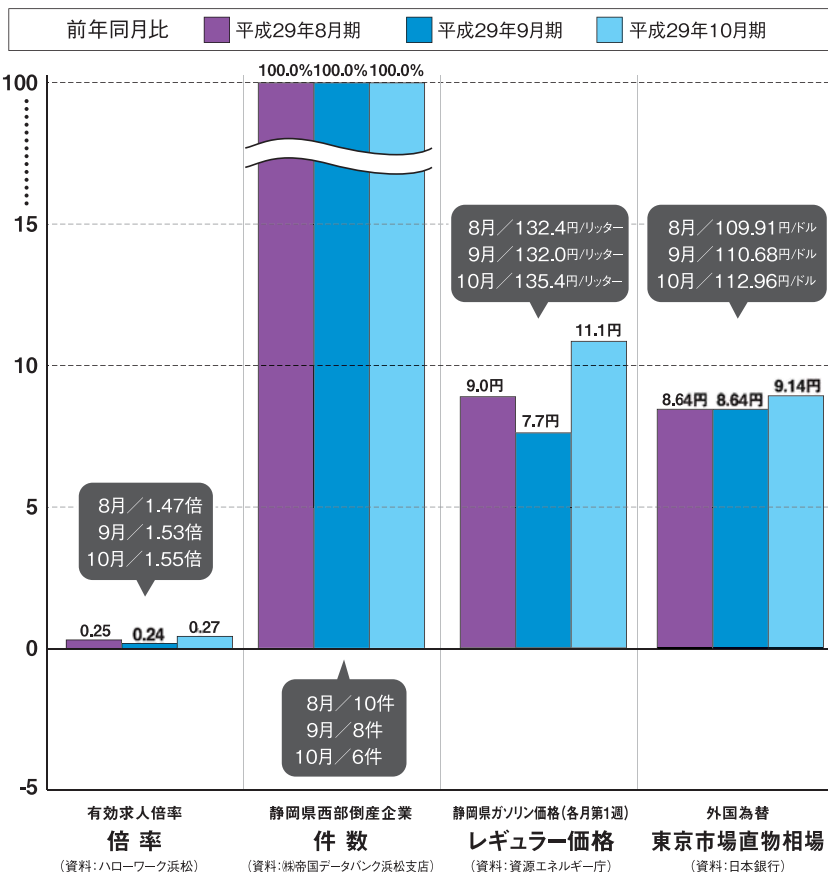


2017年10月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり135.4円で前月比3.4円上昇した。前年同月比では11.1円上昇している。ガソリン高が景気回復基調に水を差す懸念も出てきた。

### 外国為替



2017年10月の外国為替は1ドル112.96円となった。前年同月と比較すると9.14円の円安となっている。2017年春以降、112円プラスマイナス4円程度の幅の中で安定的に推移している。



# 浜松地域の経済動向

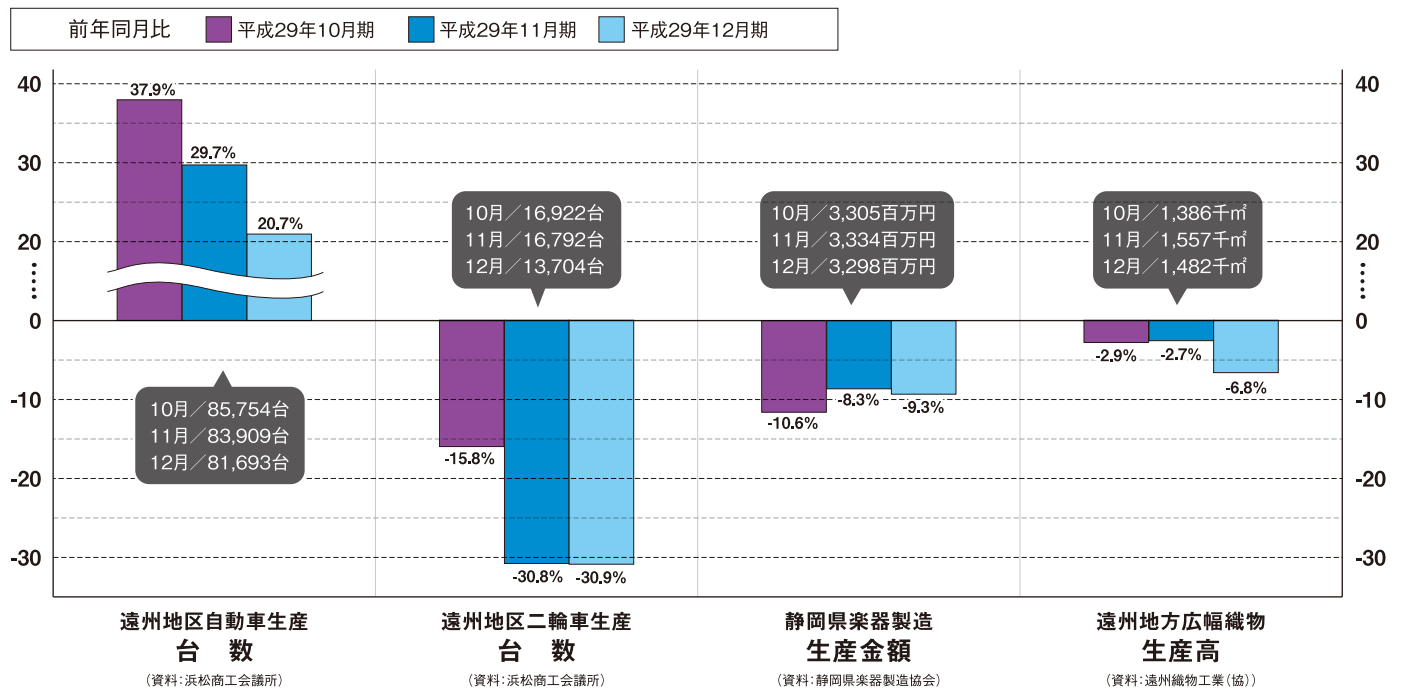
—平成29年12月を中心に—

## 景気拡大が続く。業種を問わず 人手不足感が極めて強くなっている。

浜松地域の経済は、引き続き緩やかな拡大が続いている。自動車産業が牽引し幅広い業種に景気回復感が波及してきており、小規模企業の業況も上向いてきた。大河ドラマ効果は12月で終了。館山寺温泉宿泊者数が2年ぶりに減少するなど、大河ドラマ終了後の観光戦略が課題となっている。有効求人倍率は1.7倍台と25年ぶりの高水準。業種を問わず人手不足感が極めて強くなっており、人手不足が供給制約要因になってきている。

2018.  
**03**  
2018年3月発行  
発行：浜松商工会議所

### ① 製造業（主要経済指標）



#### 自動車



2017年12月における遠州地区の自動車生産台数は前年同月比20.7%増の8.1万台となった。17年1月以降、前年同月水準を常に上回り、5月、7月以外は2桁増となっている。主力の国内向けが軽自動車・小型車とも底堅いことに加え、輸出も好調だった。2017年の年間生産台数は前年比19.6万台増の99.0万台となった。

電気自動車になると不要となるといわれている部品も、足元では増産基調で当面高水準の操業が続くと思われる。

#### 二輪車



2017年12月における二輪車生産台数は前年同月比30.9%減の1.4万台となり、3カ月連続で前年同月水準を下回った。内需向け・輸出とも前年同月水準を下回ったが、特に内需向けは6カ月連続で前年比2桁減と低迷している。2017年の年間生産台数は22.1万台となり、前年を7千台下回った。

生産水準は切り下がっているが、部品メーカーからは「海外向けの受注が増加」「二輪車メーカーからの船外機部品受注が好調」といった声がかかれた。

#### 楽器



2017年12月における生産金額は前年同月比9.3%減の33億円となり、7カ月連続で前年同月を下回った。前月比では生産金額は、この3カ月間ほぼ横ばいで推移している。分野別に12月の生産台数をみると、ピアノ、電子・電気ピアノ、電子オルガン、管楽器のいずれも前年同月水準を下回った。中小企業からは「修理関連が減少している」といった声もあるが「年末に向けて受注は良好」「景気回復を感じる」という明るい声も目立つ。

#### 繊維



2017年12月の生産量は前年同月比6.8%減の1,482千㎡となり、14カ月連続して前年同月を下回った。

春夏物衣料の生産が終盤に入り、一部品種に陰りが見え始めた模様。

# 浜松地域の経済動向

## ② 非製造業〈主要経済指標〉

### 運輸



2017年12月におけるタクシー乗車人員は前年同月比1.8%減の56.5万人となった。前年同月水準を下回るのは4カ月連続。2017年は大河ドラマ効果で観光タクシーや、龍潭寺、大河ドラマ館などでの発着運行回数は好調だったが、年間乗車人員は前年を9万人下回る586万人となった。

### 観光



2017年12月の浜松市内シティホテル4社の稼働率は前年同月比0.1ポイント増加の71.4%となった。大河ドラマ関係の駆け込み需要は堅調だったが、中国からのインバウンドが減少した。

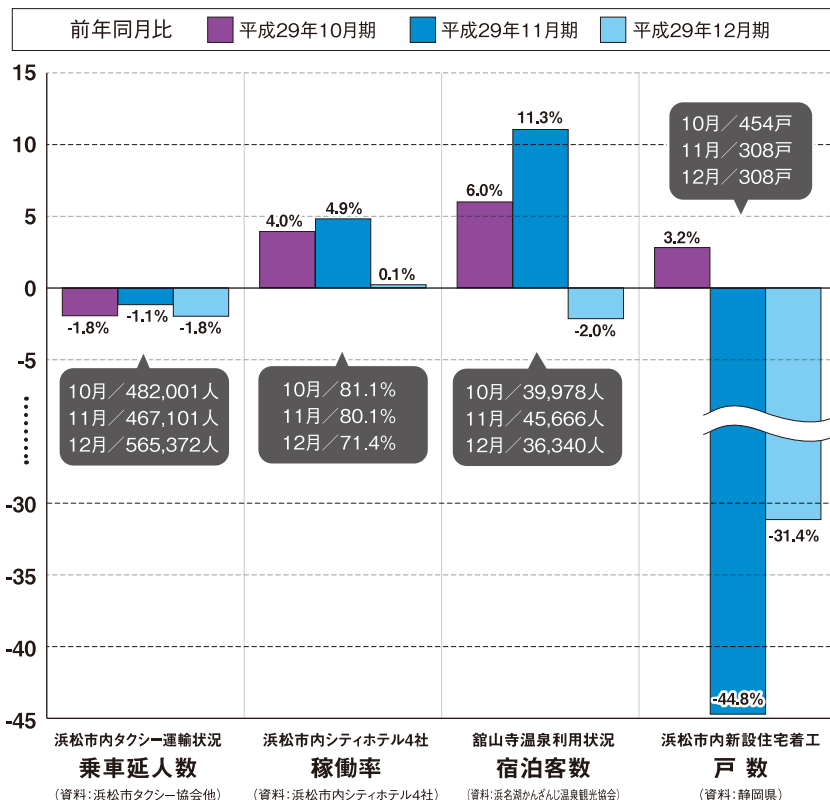
2017年12月の館山寺温泉宿泊客数は前年同月比2.0%減の3.6万人となった。前年同月比マイナスは24カ月ぶり。大河ドラマ終了後の需要喚起が課題となっている。

### 住宅着工



2017年12月における浜松市の住宅新設着工は前年同月比31.4%減の308件となった。前年同月水準を下回ったのは2カ月連続。

2017年の年間着工件数は前年比78件減の5,370件となった。10月までは前年を上回る水準で推移したが、11月、12月が大幅減少となり、前年比減少となった。



## ③ その他〈主要経済指標〉

### 有効求人



ハローワーク浜松管内における2017年12月の有効求人倍率は前年同月比の0.29ポイント改善の1.76となった。1.7倍台はほぼ25年振り。業種を問わず人手不足感が強くなっており、人手要因による供給制約が目立つようになってきた。

### 倒産企業



2017年12月における県西部の企業倒産件数(帝国データバンク調べによる負債総額1千万円以上の法的整理による倒産)は6件、負債総額は3億円となった。2017年の倒産件数は8月を除いて1桁台で推移、年間倒産件数は前年比16.7%減少した。

### ガソリン価格



2017年12月第1週のレギュラーガソリン価格は1リットル当たり141.4円と前月から5円上昇した。前年同月比では14円上昇している。足元では原油価格の上昇に服感がみられるが、ガソリン価格の上昇は景気拡大に水を差す要因となる懸念がある。

### 外国為替



2017年12月の外国為替は1ドル112.97円となった。前年同月と比較すると2.98円の円高となっている。2017年は年間を通じて112円プラスマイナス5円の範囲内で推移、変動幅の小さい1年となった。

